

平成 1 4 年度

独立行政法人国立美術館
国立西洋美術館

実績報告書

目 次

国立西洋美術館の概要
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1. 収集保管
(1) 美術作品の収集（購入・寄贈・寄託）の状況
(2) 保管の状況
(3) 修理の状況
2. 公衆への観覧
(1) 展覧会の状況
「常設展」
「ブラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」（共催展）
「大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ -」（自主企画展）
「ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」（共催展）
(2) 貸与・特別観覧の状況
3. 調査研究
4. 教育普及
(1) - 1 資料の収集及び公開（閲覧）の状況
(1) - 2 広報活動の状況
(1) - 3 デジタル化の状況
(2) - 1 児童生徒を対象とした事業
(2) - 2 講演会等の事業
(3) - 1 研修の取組
(3) - 2 大学等との連携
(3) - 3 ボランティアの活用状況
(4) 渉外活動
5. その他の入館者サービス

国立西洋美術館の概要

1. 目的

国立西洋美術館は、昭和34年、東京・上野公園の一角にフランス政府から寄贈返還された松方コレクション（印象派の絵画及びロダンの彫刻を中心とするフランス美術コレクション）を基礎に、西洋美術作品を広く公衆の観覧に供するとともに、西洋美術を専門的に調査研究する機関として開館した。

以来、これまで広く西洋美術全般を対象とする唯一の国立の美術館として、展覧事業のみならず、西洋美術に関する作品及び資料の収集・保存、調査研究、教育普及、出版物の刊行等を行ってきた。

当館の目的は、現在及び将来においてできる限り効果的に西洋美術に関する作品を収集・展示し、また、幅広い人々に作品への理解と楽しみが深められるように、コレクションを管理かつ拡充・保存し、美術情報、美術館教育の調査研究に努めることである。

2. 土地・建物

建面積	3,714m ²
延べ面積	17,547m ²
展示面積	4,713m ²
収蔵庫面積	1,093m ²

3. 定員 31人

4. 予算 1,264,087,317円

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画

- 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。
 - (1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化
 - (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進
 - (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進
 - (4) 外部委託の推進
 - (5) 事務のOA化の推進
 - (6) 連絡システムの構築等による事務の効率化
 - (7) 積極的な一般競争入札を導入
- 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

実績

1. 業務の一元化
情報公開制度の共通的な事務を一元化し、本部を中心とした文書管理システムを稼働させた。
人事記録、給与計算等の人事事務、収入、支出、保険契約等の会計事務及び保険請求事務等共済事務で各館で行っていたもののうち、共通的な事務を本部へ一元化し、業務の効率化を図っている。
2. 省エネルギー等（リサイクル）
 - (1) 光熱水量
節水、節電による省エネルギーについての文書を職員へ回覧し、意識の啓発を図るなどして省エネルギー化に努めた。
ア. 電気 使用量 5,366,350kwh（前年度比98.86%） 料金 84,660,519円（前年度比83.93%）
イ. 水道 使用量 25,212 m³（前年度比105%） 料金 19,318,466円（前年度比111%）
ウ. ガス 使用量 711,793 m³（前年度比105.43%） 料金 33,352,709円（前年度比80.6%）
 - (2) 廃棄物処理量
コピー機の周辺に両面コピーを促すシールを貼り廃棄物の減量化を推進している他、LANの活用によるペーパーレス化に努めた。
ア. 一般廃棄物 25,225Kg（前年度比114.61%） 料金467,667円（前年度比114.61%）
イ. 産業廃棄物 10,355Kg（前年度比66.31%） 料金266,636円（前年度比66.31%）
 - (3) その他 古紙の再利用によるリサイクル、OA機器のトナーカートリッジリサイクルによる再生使用
3. 施設の有効利用
講堂等の積極的な利用を推進し、展覧会に関する講演会、レクチャーの他、外部団体の見学会、研修会、会議等への有効利用を図った。
講堂等の利用率 13.6%（50日/365日）

講演会	9日
スライドトーク	3日
ワークショップ	12日
音楽プログラム（コンサート）	1日
先生のための鑑賞プログラム	7日
研修会、見学会、内覧会、協議会等	18日
4. 外部委託
下記の業務のほか今年度新たに、国立西洋美術館ホームページサーバ運用管理業務及び、ホームページ改訂・編集・更新業務について外部委託を実施した。24時間稼働し続けるサーバの保守業務や不正アクセス対策、ホームページのデザイン・レイアウト変更等の業務を、専門的な技術を持つ業者に委託した。

1 会場管理業務	7 広報物等発送業務
----------	------------

- | | |
|----------|--------------------|
| 2 設備管理業務 | 8 美術館情報システム等運用支援業務 |
| 3 清掃業務 | 9 収入金等集配金業務 |
| 4 保安警備業務 | 10 レストラン業務 |
| 5 機械警備業務 | 11 ミュージアムショップ業務 |
| 6 情報案内業務 | |

5. OA化

館内LANの整備状況

全館内にLANが整備されており、館内LANシステムの活用による職員への連絡業務効率化、ペーパーレス化を推進し、共通情報の各種ファイルを共有化することによって事務の省力化を図っている。また、収入、支出、財産管理等企業会計を効率的に処理するための会計情報システムを導入し、各種伝票作成時において帳簿類への自動記帳反映がされることにより、事務処理の正確・迅速化及び、省力化が成されるよう努めている。

紙の使用量 727,000枚（前年度比174%）

- A 4 600,000枚
- A 3 49,500枚
- B 4 45,000枚
- B 5 32,500枚

6. 一般競争入札

代替性の無い、極めて貴重な文化遺産である西洋美術作品を所蔵しているため、保安上の観点から会場管理業務、清掃業務については指名競争入札を実施している。また、複数の業者から見積書を徴収するなどして市場調査を行い、コストに対する意識を高め、経費の削減に努めている。

一般競争入札件数 3件（総契約件数57件）

- 1 国立西洋美術館設備総合管理業務
- 2 国立西洋美術館設備総合保全業務
- 3 赤外線顕微鏡一式

7. 評議員会，外部評価委員会

（1）評議員会

開催回数 2回

議事内容

第2回評議員会 平成14年6月3日（月）12：30～15：00

平成13年度事業報告について

平成14年度事業計画について

その他

第3回評議員会 平成15年3月17日（月）12：30～15：00

平成14年度事業報告（中間）について

平成15年度事業計画について

展覧会計画

その他

8. 特記事項

1. 業務効率化

鑑賞者へのサービス向上、広報の強化、情報公開などに適切な対応が可能となるよう、国立西洋美術館構内整備検討委員会、展覧会・開館時間に関する検討会、情報公開に関する検討会、バリアフリーに関する検討会を設置し事務機能の適正化及び、効率化を推進した。

2. 研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善

外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図っている。

独立行政法人特有の会計処理、消費税計算の概要の研修会（東京国立近代美術館）

平成14年度博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（東京文化財研究所）

研究調査機器（パイロライザー及び、周辺装置）取扱い講習会

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

業務運営の効率化に積極的に取り組み、全体では前年度に引き続き十分達成された。

【見直し又は改善を要する点】

省エネルギーの数値においては昨年度同様に効率化に努めたが、水道使用量、水道料金、ガス使用量については、季節・気温等の影響による他、開館日数が前年度より17日間多かった事や、入場者数が増加した事（前年度比114.83%、95,310人増）に伴い、会場内の空調管理等に使用する水道使用量及びガス使用量が増加したが、ガス料金については効率的な契約内容となるように見直しを行った結果、使用量の増加に拘らず、料金額について前年度比80.6%の効率化を達成した。

廃棄物使用量については、開館日数が前年度より17日間多かった事や、入場者数が増加した事（前年度比114.83%、95,310人増）に伴い一般廃棄物が増加した。しかし、産業廃棄物については減量化に努め、前年度を下回る量とした。

紙の使用量については、新たな広報事業（展覧会作品リスト英語版、展示場閉室時の作品リスト等無料印刷物の作成、各県教育委員会との広報活動連携）に力を入れた結果使用量が増加した。今後も業務運営の改善可能な点の見直しに努め、効率化を引き続き維持していく必要がある。

【計画を達成するために障害となっている点】

入場者や季節の寒暖によって、光熱水量が増減することとなり、それを正確に把握することは困難である。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 収集・保管

(1) 美術作品の収集（購入・寄贈・寄託）の状況

中期計画

(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。

(国立西洋美術館)

中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。

(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。

実績

1. 購入 9件
2. 寄贈 1件
3. 寄託 2件
4. 陳列品購入費 予算額 298,852,000円 決算額 291,083,736円
5. 特記事項

基本的収集方針に基づき、美術作品購入選考委員会及び評価員による審議のもと、美術作品9点を購入。コレクションの強化を図った。

寄贈1点(絵画作品)及び、寄託2点(絵画作品)の受入を行った。今後も美術作品の寄贈・寄託の受入を推進し、展示の充実、研究資料として積極的な活用を図っていく。

収集作品

・購入

ヤン・ブリューゲル《アブラハムとイサクのいる森林風景》(1599年、油彩、板)

ニコラス・ベアトリゼ《イフィゲネイアの犠牲》(1553年、エングレーヴィング)

ルカス・クラナハ(父)《サムソンのタペストリーのある馬上試合(第二トーナメント)》(1509年、木版画)

レンブラント《薬剤師アブラハム・フランケンの肖像》(1657年頃、エッチング、ドライポイント、ビュラン)

ハンス・ゼーバルト・ベーハム《キリストの頭部》(1519年、エングレーヴィング)

フィリップ・ハレ《聖母の死(ピーテル・ブリューゲルの構図による)》(1574年、エングレーヴィング)

ジョルジョ・ギージ《エゼキエルの幻視》(エッチング、エングレーヴィング)

ヨリス・ファン・フリート《聖ヒエロニムス(レンブラントの構図による)》(1631年、エッチング、エングレーヴィング)

マックス・クリンガー《私室での陵辱》(1882年、インク/紙)

・寄贈

フランク・ブラングイン《煙草をくわえた男》(19・20世紀頃、油彩)

・寄託

ポール・エリー・ランソン《レ ジキタリス》(1899年、油彩)

ジョルジュ・ド・ラ・トゥール《聖トマス》(1624年、油彩)

平成13年度に、かつて松方コレクションに属していた計6点のタピスリーの寄贈をいただいたことで、今年度、これら作品を初めて公開するべく、小企画展「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」を入場料金無料で開催し、寄贈作品の積極的活用を図った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今年度は絵画1点、素描1点、版画7点を購入した。また、絵画1点の寄贈を受け、絵画2点の寄託を受けた。特筆すべきは、ヤン・ブリューゲルの《アブラハムとイサクのいる風景》を購入したことであろう。17世紀フランドル絵画として、西洋美術館にはルーベンスやヴァン・ダイクなど数点の作品がすでに所蔵されている。しかし、17世紀フランドル絵画の多様性を考慮した場合、ブリューゲルの風景と花の絵は是非とも必要な作品であり、数年にわたる調査と交渉の末、この画家の名品を収集に加えることができたことは大きな成果であった

と考える。また、平成13年度に、かつて松方コレクションに属していた計6点の見事なタピスリーの寄贈をいただいたことで、今年度、17世紀から18世紀のタピスリー芸術の精華であるこれら作品を初めて公開するべく、小企画展「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」を入場料金無料で開催し、多くの人々に鑑賞の機会を提供することができた。この展覧会には寄贈者を招待し、展覧会の趣旨説明及び、鑑賞の際の作品解説を行うなどした。こうした活動を通じて、寄贈者の方々に御寄贈いただいた作品が美術館活動の中で有意義に活用され、多くの人々がその作品を鑑賞し展覧会を楽しんでいるという実情を御理解いただく事により、今後の寄附・寄贈の推進方策にも繋がっていくと考える。

【見直し又は改善を要する点】

1959年の開館以来、当館は中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れを概観できるようなコレクションの収集、また、その保管に努めてきた。とはいえ、近世・近代のヨーロッパ美術という大枠はあるものの、各時代、各地域にまたがる広い範囲を対象とする作品収集は決して容易な作業ではない。今後とも各分野のバランスを取りながら収集に努めていく必要がある。

***添付資料**

収集した美術作品件数の推移（定量的数値推移一覧表 p.1）

寄託された美術作品件数の推移（定量的数値推移一覧表 p.2）

(2) 保管の状況

中期計画

- (2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。
- (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。

実績

1. 温湿度

展示会場

空調実施時間 24時間

通 期： 温度20～22 湿度50～55%

(夏期のみ： 温度22～24 湿度50～55%)

作品への影響を最低限とするため、上記範囲の中で一定の温湿度となるよう努めている。

収蔵庫

空調実施時間 24時間

温度20～22 湿度50～55%

2. 照明

器具： 蛍光灯（紫外線カット）、スポットライト（紫外線・赤外線カットフィルター）

照度： 紙作品などの光に弱いもの 50ルクス以下

それ以外の作品 200ルクス以下

3. 空気汚染

館内数十箇所において空気汚染調査を継続的に行っている。また、工事後には必ず空気測定を行い、発生した有害物質が無くなったことを確認後に作品を展示している。

新館展示室内4箇所に自動風除扉を設置した。これにより空調の安定と、空調機器の負荷を下げる点で大きな効果を得ることができた。なお、この新設工事に伴う空気汚染調査も併せて実施した。

東京国立文化財研究所と協力して、清掃用ワックスから発生する有害物質について調査を行った。

4. 防災

監視

火災総合受信盤及び監視カメラによる監視。（中央監視室・総合受付）

館全体には、非常放送設備による放送、非常通報設備による行政機関への連絡。

有事の際には館職員による自衛消防隊、委託業者による警備員、巡視等が観覧者の避難誘導を行う。

夜間は機械警備による監視である。

消火設備

展示室：予作動型スプリンクラー設備、屋内消火栓、消火器（強化液・粉末・水バケツ等）、排煙設備、非常放送設備

収蔵庫：二酸化炭素消火設備、ハロゲン化物消火設備

自動火災報知器

展示室・収蔵庫：煙感知器、熱感知器等

防災対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防災マニュアル（地震、火災、停電）の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行った。

15年2月24日（月）上野消防署の協力の元、避難訓練、消火訓練、119番通報訓練を行った。訓練後、更に手際良く消火活動を行えるよう、館全体の消火器等の配置図を職員に周知し、防災意識を高めた。

5. 防犯

警備（原則として昼間は有人警備、夜間は機械警備）

館全体：開館時間中は看視・警備員による巡回警備と立哨警備の併用及び、監視カメラによる警備。

絵画：美術館システムによる機械警備、収蔵庫は随時監視カメラと機械警備の併用。

保安対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防犯マニュアル（作品接触、破壊、盗難）の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行った。

6. 特記事項

作品点検調書作成件数 2件

(平成14年度末作品点検調書作成件数：絵画作品352点、ブロンズ彫刻作品54点)
保存機能のさらなる整備と充実を図り、新館に新たな版画素描専用の収蔵庫、閲覧室の建設工事を着工した。
夏期の展示会場内温度については、来館者へ配慮し温度を2度高く設定している。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

昨年の本館工事に続き、今年度は、新館の扉付設工事をおこなった。これは、一方で、重いガラス扉を自動化するというバリアフリーの観点からなされたとも言えるが、同時に、各室を区切ることによって、空調の安定化を計るという意図をも持っていた。また、長期的には、この工事によって、空調機器への負荷が軽減され、機器をより長期にわたって使用できるという経済効果をも併せ持つものである。また、1月末からは版画素描室の収蔵庫の建設工事が着工され、完成後は、現在手狭となっている収蔵庫のより機能的な使用が可能になり、また、作品保管もより充実したものになっていくと考える。

【見直し又は改善を要する点】

作品の保安全管理のため、展示会場の温度、湿度、照明は諸条件に従って厳密に管理されている。しかし、この環境は来館者にとっては快適と感じられない場合もある。美術館にとって作品保全のための良好な施設条件の整備は重要な責務であるが、それと同時に来館者への配慮も必須であり、今後ともこれら諸要件を満たすための方策を検討していきたい。

(3) 修理の状況

中期計画

(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。

緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。

伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。

(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。

実績

1. 絵画 3件

版画 8件

素描 4件

タピスリー 7件

彫刻 4件

額縁 1件

2. 修理経費 予算額 6,383,000円 決算額 47,061,987円

3. 特記事項

当館では保存修復室及び保存科学室を設置しており、このスタッフを中心として外部技術者を活用し、収蔵作品の適切な保存、調査及び、計画的修復を行っている。また、他機関との情報交換の円滑化、当館に寄せられる修復・保存上への協力要請への対応等、美術館等への修復保存に関する寄与を図った。

修理業者が保存修復を行う際には研究員の監督指導の下で行っており、作品の取り扱いについてより一層の注意を図り、保存修復処置の報告書を提出することを指導している。

タピスリー「庭園婦人の図」修復処置の実施にあたり、ニューヨーク・メトロポリタン美術館染織修復部と連携し、技術協力を得て修復を実施した。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成14年度は4月よりタピスリーの保存修復処置ならびに平成15年3月に予定したタピスリー展の準備のために、所蔵作品1点、寄贈作品6点の写真撮影と修復処置が大きな業務となった。外部の染織品修復家に業務委託し、美術館内に処置の出来る設備を設けて、作品の管理、処置の方針を指導し対応した。そのうち一点は洗浄の必要があり、国内で不可能な処置をニューヨーク・メトロポリタン美術館の染色工芸品修復部に作品を空輸し、修復部の技術協力により実現した。(4月より3月中旬まで要した)

彫刻修復に関し、ロダン作品《アダム》と《エヴァ》の免震化工事ならびに修復処置を監督指示し、行った(基本設計9月より年度末まで)。また、前庭彫刻の保守点検管理によって判明した彫刻内結露のメカニズム解明のため、温湿度計を設置し調査することとした。

平成13年度に寄贈を受けたピストルフィ石彫刻作品の保存のため、一部を中庭に移動し、保存状態調査、洗浄調査を客員学芸員の藤原徹氏と行った。この調査は次年度も継続する。

また、保存修復事業の内容と実績の公開を図るため、新館1階の展示場内に資料展示のスペースを設けて平成10年度と平成11年度に実施された彫刻の免震化と修復の工程を、写真、実物資料、模型、ビデオなどを使い一般の入場者にも分かりやすく紹介する「前庭彫刻 免震化と修復」を実施し、好評である。

【見直し又は改善を要する点】

作品の修理については、所蔵品の点検調査を行い、緊急性の高いものを優先して美術作品の保存修復処置を実施しているが、保存修復では一点の作品に要する時間と技術や理論の充実、質の高さを求められ、客員研究員等外部の専門家とのどのような連携・協力体制がとっていけるのかも含めて課題であると考え。

*添付資料

修理した美術作品の点数(定量的数値推移一覧表 p.3)

2. 公衆への観覧

(1) 展覧会の状況

中期計画

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

(国立西洋美術館)

年3回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。
また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
- (2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

実績(総括表)

1. 常設展
展示替 4回(新収作品展示、貸出、作品修復に伴う一部作品の入替)
版画展示 2回(「クリシェ・ヴェール」、「受難伝」)
子どもから楽しめる美術展「手と心 - モネ、ドニ、ロダン」 1回(常設展と併設)
小企画展「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」 1回(常設展と併設)
2. 企画展等 3回(中期計画記載回数:年3回程度)
共催展「プラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」
自主企画展「大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 」
共催展「ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」
3. 入場者数 737,775人(企画展での入場者数を含み 983,045人)
目標入場者数539,000人
4. 展覧会開催経費 予算額 294,686,000円 決算額 136,433,378円
5. 特記事項
東京都、神奈川、埼玉、千葉各県教育委員会と展覧会広報について連携し、広報活動についての充実を図った。
アメリカ、ハーヴァード大学附属フォッグ美術館と交流し、アメリカ屈指の美術コレクションの一つであるウインスロップ・コレクションを日本で初公開する展覧会を開催した。

【良かった点、特色ある取組み】

年間を通じて多くの方々が展覧会と常設展示を訪れ、一応の役割を果たし、全体としてはバランスのとれたものであったと考える。

【見直し又は改善を要する点】

個々の展覧会には反省すべき点もあり、今後の企画や運営に生かし、引き続き社会状況や人びとのニーズの変化に対応した魅力ある質の高い展示の開催に取り組んでいく必要がある。また、当館がヨーロッパの所蔵品を中心とする事から、海外との交流や展覧会についてもヨーロッパが中心となってしまうのは致し方がない事ではあるが、今年度はアメリカ、ハーヴァード大学附属フォッグ美術館と交流し、アメリカ屈指の美術コレクションの一つであるウインスロップ・コレクションを日本で初公開する展覧会を開催することができた。今後とも、今まで密とは言えなかった地域との交流の努力をしていきたい。

***添付資料**

入館者数の推移（定量的推移一覧表 p.4）

入場料収入の推移（定量的推移一覧表 p.7）

「常設展」

方 針

来館者が常設展示の質の高い所蔵作品をいつでも鑑賞できるようにという方針と、通年にわたり展示するものである西洋美術作品の特性のもと、当館の代表的な所蔵作品は年間を通じて展示され、展示替えは特別な場合を除いて行われていない(貸出中の作品の代替として、普段は収蔵庫にしまわれている作品を展示することはある。)。また、版画素描展示室において、テーマを設けて版画・素描コレクションの展示(各3ヶ月程度)を年2回開催している他、教育プログラム「子どもから楽しめる美術展」等の小企画展を開催するなど、魅力ある常設展となるように努めている。

実 績

1. 開催期間
平成14年4月1日～平成15年3月31日(302日間)
(所蔵品展のみの開催期間113日間)
下記の展示は常設展と併設
平成14年6月18日～平成14年9月1日(65日間)
「手と心 - モネ、ドニ、ロダン」展
平成14年9月14日～平成14年12月8日(74日間)
「クリシェ・ヴェール」展
平成15年3月4日～平成15年5月25日(72日間)
「受難伝」展
平成15年3月18日～平成15年5月25日(60日間)
「織りだされた絵画」展
2. 会 場
本 館 1階～2階
新 館 1階～2階
企画展示館 地下1階(平成15年3月25日～5月25日開催、小企画展「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」)
3. 出品点数
本 館 82件
新 館 98件
企画展示館 7件(平成15年3月25日～5月25日、小企画展「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」開催期間中のみ)
4. 入館者数 336,699人(目標入場者数250,000人)
うち常設展のみの入館者数 91,429人(目標入場者数86,000人)
5. 入場料金 一般420(210)円、高大生130(70)円、小中学生無料
ただし、平成15年1月14日～2月14日は、館内整備による新館閉室のため、一般200円、高大生70円、小中学生無料とした。
()内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料。
65歳以上の方は無料。
心身に障害のある方及び、付添者は無料。
学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料。
毎月第2、第4土曜日及び、文化の日は常設展示無料観覧日。
6. 入場料収入(常設展のみの入場料収入の合計17,042,770円)
7. アンケート調査
調査期間 平成15年3月6日～平成15年3月9日(4日間)
調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。調査協力者へはポストカードなどの粗品を進呈した。
アンケート回収数 120件

アンケート結果 ・良い91.7%(110件) ・普通7.5%(9件) ・悪い0.8%(1件)

8. 特記事項

フランスの建築家ル・コルビュジエが設計した本館では、18世紀以前に活躍した芸術家の絵画・彫刻作品が展示され、キリスト教を主題とした多くの宗教画を見ることができる。新館では、19世紀から20世紀の作品が展示されている。また、素描のコレクションには、18世紀から19世紀のフランスの芸術家の作品が中心に所蔵され、版画コレクションには、15世紀から20世紀初頭までの主要な西洋版画家の作品が所蔵されており、これら版画・素描のコレクションは、テーマを設けて定期的に新館の1室で展示されている。さらに、美術館前庭の《地獄の門》、《考える人》、《カレーの市民》などのロダンの彫刻作品や、カルポー、マイヨールの作品が展示されている。

常に美術館に展示されているモネ、ドニ、ロダンの作品を利用し、アーティストが制作を通して何を追求しようとしてきたか、どのような表現方法を用いたか、そして時代を追って作品に表現されたスタイルが、どのように変化してきたかを考える教育プログラム、子どもから楽しめる美術展「手と心 - モネ、ドニ、ロダン」を行った。(平成14年6月18日~平成14年9月1日(65日間)、詳細は「教育普及」児童生徒を対象とした事業欄へ)

テーマを設けた版画コレクションの展示を2回開催した。

「クリシェ・ヴェール」(平成14年9月14日~平成14年12月8日(74日間))

「受難伝」(平成15年3月18日~平成15年5月25日(60日間))

当館には、これまで、タピスリー芸術の頂点ともいわれる、ルイ14世治下のフランスで織られた著名なゴブラン織り連作「王の城づくし」中の1点《シャンポール城：9月》が所蔵されていた。しかし、繊細で脆弱な絹糸が用いられていることによる保存上の理由と、展示効果の観点から、なかなか公開の機会に恵まれてこなかったが、平成13年度に糖業協会および、日本興業銀行(寄贈当時)より、かつて松方コレクションに属していた計6点の見事なタピスリーの寄贈をいただいたことで、今年度、17世紀から18世紀のタピスリー芸術の精華であるこれら7点の作品を初めて公開するべく、小企画展「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」を開催した。(平成15年3月18日~平成15年5月25日(60日間))

なお、本展は入場料金を無料とした。

2002年ワールドカップサッカー大会の開催に伴い、パスポートを掲示した外国人の常設展入場料金を無料とした。(平成14年5月28日~7月7日、入場者数1,259人)

館内整備のため新館を閉室とした(平成15年1月14日~平成15年2月14日(28日間))

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

常設展示については、一般の方々からも、専門家の方々からも好意的なご意見を頂き、今年度の目標入場者数を達成することができた。また、今年度は常設展示の一環として、教育プログラム「手と心 - モネ、ドニ、ロダン」を夏に、テーマを設けた版画コレクション展「クリシェ・ヴェール」を秋に開催し好評を頂いた。そして、春には版画コレクション展「受難伝」と、寄贈を受けたタピスリーを修復し入場料金を無料の小企画展として展示する「織りだされた絵画」を開催しており、こちらも好調な出だしを切っている。

子どもから大人、さらに研究者や専門家までの幅広い層を対象とした展開がされたことは大きな成果であった。今後も一層の充実に取り組んでいきたいと考えている。

【見直し又は改善を要する点】

解説パネル、サイン及び、キャプション等の見直しを進め、今後も魅力ある質の高い展示の充実に継続して取り組んでいく必要がある。

「プラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」(共催展)

方 針

国立西洋美術館でプラド美術館の展覧会を、という企画は何回か浮上しては実現しなかったものだが、この度ようやく、実現されることとなった。

出品作の中心となるのは、ベラスケスを始めとするスペイン絵画である。しかし今回の展覧会の特色は、単にスペイン美術の流れを追うだけでなく、ハプスブルク朝時代の宮廷美術/ブルボン朝時代の宮廷美術、宮廷の国際的な美術コレクション/スペインの宮廷画家たちの作品、宮廷美術/宗教美術、宮廷が主要な美術活動の場であった18世紀以前の美術/パブリックな美術館とアカデミーが美術を主導する19世紀の美術、といういくつかの明確な対立項を設定し、これに応じて展覧会構成を行ったことである。展覧会の主旨は、このような構成を通して、プラド美術館の前身となった王室コレクション、あるいは王家の国際的な美術収集やメセナ活動が美術史の中で果たした役割を浮き彫りにすることにあつた。さらにはイタリアやフランス、フランドルといったそれぞれの時代のヨーロッパ美術の中核地帯の作品とスペインの作品を対照することで、スペイン美術のこうした地域との関わりと特色が明らかにされることも期待された。

実 績

- 開催期間 平成14年3月5日(火)~平成14年6月16日(日)(67日間)
(3月5日からの総開催日数91日間)
ゴールデンウィーク(4月27日~5月6日)は無休
- 会 場 国立西洋美術館 企画展示館 地下2~地下3階
- 主 催 国立西洋美術館、読売新聞社
協 力 日本航空、日本通運、西洋美術振興財団
協 賛 清水建設、トヨタ、KDDI、JR東海、JR西日本、東レ
特別協力 JR東日本
- 出品点数 77件
- 入館者数 395,962人(目標入場者数257,000人)
(3月5日からの総入館者数516,711人(目標入場者数350,000人) 1日平均5,678人)
- 入場料金 当日券 一般1,300(950)円、高大生900(510)円、小中学生無料
割引券 一般1,200円、高大生850円、小中学生無料
前売券 一般1,100円、高大生800円、小中学生無料
()内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料。
学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料。
心身に障害のある方及び、付添者は無料。
- 入場料収入 108,713,420円
(3月5日からの総入場料収入143,716,000円)
- 担当した研究員数 2人
- 展覧会の内容
世界屈指の美術館であるスペインの国立プラド美術館の絵画コレクションを、日本において初めて大規模に紹介する展覧会である。
プラド美術館は、スペイン美術の比類ないコレクションを誇るとともに、16、17世紀を中心とするフランドルとヴェネツィア絵画の重要な収集によってもその名を知られている。プラド美術館の収集のこのような広がりや、美術館の前身のひとつで、収蔵品の核となっているスペイン王室コレクションの歴史と趣味を反映している。ハプスブルクとブルボンの二つのスペイン王朝の宮廷は、ヨーロッパ各地の優れた画家たちに活躍の場を与え、さらに作品収集活動に情熱を注いだ。

本展は、これら「プラドの華」ともいべき作品群の中から5点のベラスケス、6点のゴヤをはじめとする代表的作品77点(絵画76点、彫刻1点)を選び、現在に継承されるその美の真髄を伝え、スペイン美術の流れを、王室コレクションとの関わりを通じて辿ってみたものである。

10. 講演会等

4回 参加人数445人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
(3月5日からの総回数8回、参加総人数2,167人)

スライドトーク等

3回 参加人数361人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)
(3月5日からの総回数5回、参加総人数562人)

イヤホンガイドの実施

利用者数39,174人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)
(3月5日からの利用者総数11,684人)

11. 広報

新聞、雑誌、テレビ、交通広告、インターネットホームページ、DM、チラシ等による幅広い情報の提供と、共催者及び、各県教育委員会等との連携による広報活動を行った。

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

(平成13年度実績分)

読売新聞(夕刊) 3月5日/18面 「プラド美術館展始まる」

THE JAPAN TIMES 3月13日/9面 “THE POWER AND THE GLORY OF THE PRADO”

赤旗新聞 3月17日/16面 「ゴヤの謎」 山口泰二

朝日新聞(夕刊) 3月28日/6面 「異才が放つ光と影の迫力」 神谷幸江

公明新聞(夕刊) 4月9日/5面 「作品の来歴示す目新しい試み」 宝木範義

読売新聞(夕刊) 4月10日/8面 「プラド美術館展 《善き羊飼ひ》」

読売新聞(夕刊) 4月15日/8面 「ヴァン・ダイクともう一つの自画像」 桜井武

読売新聞(夕刊) 4月17日/12面 「プラド美術館展 《フェリペ2世》」 岡村喬生

(平成14年度実績分)

読売新聞 4月18日/33面 「来場者20万人に」

読売新聞(夕刊) 4月24日/10面 「美術館博物館情報」 緒川たまき

産経新聞 4月25日/18面 「話題の美術番組から」

新美術新聞 5月1日/2面 「プラド美術館展 心に残る一点」 藪野健(画家、早稲田大学教授)

上毛新聞 5月2日/23面 「魅力 スペイン絵画」

読売新聞 5月6日/30面 「プラド展30万人突破」

読売新聞(夕刊) 5月8日/4面 大高保二郎

読売新聞 5月28日/37面

読売新聞 5月29日/33面

読売新聞 5月30日/35面

読売新聞 5月30日/38面 「プラド美術館展来場者40万人に」

両毛新聞 5月30日/2面 「両毛エンタテインメント」

読売新聞 6月1日/33面

日本経済新聞(夕刊) 6月7日/1面

朝日新聞 6月10日/7面

朝日新聞 6月10日/7面 高階秀爾(美術評論家)

読売新聞(夕刊) 6月14日/22面 「プラド展50万人」

読売新聞 6月17日/34面 「プラド美術館展52万人来館し閉幕」

【雑誌】

(平成13年度実績分)

美術の窓 2月号 「プラド美術館展 - スペイン王室コレクションの美と栄光」 (株)生活の友社

weeklyぴあ 1月28日 「ついにプラドも日本へやってくる！」 ぴあ(株)

望星 2月号 「プラド美術館展」 東海大学出版会

芸術新潮 4月号 「日本展のみどころは？プラド美術館の未来は？」 (株)新潮社

メイブル 4月号 「スペイン王室が育てた画家たちの華麗なる足跡」 集英社

(平成14年度実績分)

東京ぐらし 春 (有)ワーズワークス

文化庁月報 4月号 「文化人の本音「文化で日本を元気に」」 高階秀爾(美術評論家) 文化庁

エルダー学術情報(首都圏版)春 エルダーホステル協会

月刊文化財 4月号 第一法規出版

季刊ハヤシ画廊 NO.95

美連協ニュース NO.74 美術館連絡協議会会報

全国美術展スケジュール&マップ5月号 「今月のBEST1インタビュー「プラド美術館展」」 月刊ギャラリー

一枚の檜 5月号 一枚の檜

WORLD 5月号 (株)ワールド航空サービス

Weeklyぴあ 5月13日 ぴあ(株)

ポテトチップス 春~夏号 PCアート振興会議

Weeklyぴあ 5月20日 ぴあ(株)

Weeklyぴあ 5月27日 ぴあ(株)

STARS AND STRIPES 5月30日 星条旗新聞社

Cine Club 6月号 Events of June '02 (株)アルク

チケットぴゅう 6月号 JR東日本ぴゅう旅行企画センター

一個人 6月号 美術展情報 KKベストセラーズ

Weeklyぴあ 6月3日 ぴあ(株)

日本経済新聞(夕刊) 6月5日/12面 日本経済新聞社

ぴあ 6月10日 ぴあ(株)

METROPOLIS 6月14日 EXHIBITIONS METROPOLIS

Weeklyぴあ 6月17日 ぴあ(株)

内外教育 5306号 「ラウンジ「小中学生と美術展」」 時事通信

【ネット関係】

art myplanet

読売新聞HP 読売新聞社

美術館.com

13. アンケート調査

調査期間 平成14年5月30日~平成14年6月2日(4日間)

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。調査協力者へはポストカードなどの粗品を進呈した。

アンケート回収数 600件

アンケート結果 ・良い80.9%(485件)・普通17.6%(106件)・悪い1.3%(8件)・無回答0.2%(1件)

14. 特記事項

共催者の協力を得て小中学生の観覧料金を無料とした。また、展覧会への理解を深めるための小中学生向け解説パンフレット(ジュニアパスポート)を作成し、無料で配布することとした。

会期中は展示解説ビデオを上映した。

小中学生の観覧料金無料化に伴い、東京都、神奈川、埼玉、千葉各県教育委員会と連携し、関係機関及び、小中学校へ展覧会についてのPR活動を行った。

ゴールデンウィークの期間(4月27日~5月6日)は無休とした。

プラド美術館展開催記念文化講演会を、有楽町のよみうりホールにて開催した。(平成14年2月23日、平成14年3月30日)

平成14年4月15日午後2時から午後8時まで、展覧会協賛企業特別内覧会を開催した。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

コレクションズを主題とするこうした展覧会はともすると収集された作品を列挙することに終始してしまうが、結果からすれば、本展では77点の厳選された作品によって王室コレクションの性格を簡潔に示し得たと思う。もちろん展覧会のコンセプトに対する説得力がその多くを、ベラスケス、ゴヤ、スルバラン、ムリーリョ、ティツィアーノ、ルーベンスといった画家の質の高い作品に負っていたことは、言うまでもない。

本展の開催にあたっては、国立西洋美術館がスタッフにスペイン美術の専門家を欠いているため、昭和女子大学の木下亮教授に、平成11年から始まった準備作業の当初より客員研究員として御参加いただき、企画、作品選定の段階から作品の出品交渉に至るまで御協力をお願いした。またカタログ制作や講演会では、大高保二郎早稲田大学教授、雪山行二横浜美術館長他、木下教授を通してスペイン・ラテンアメリカ学会のスペイン美術研究者の皆様から多大な御支援と御協力をいただくことで、展覧会をさらに有意義なものとすることができた。

なお、本展の観覧者数は50万人を突破したが、懸念したような混雑はみられなかった。その理由としては、比較的少数の作品を会場の全面積を使用して展示したことと、平日と休日の観覧者数にさほどの差がみられなかったことが大きい。観覧者の側にも展覧会を見る際の馴れ、あるいは余裕ができた、ということだろうか。そのため混雑にともなう苦情は、比較的少なかった。また、小中学生の観覧を無料にする、という試みは本展より始められたが、こちらも混乱なく、一般に好評をもって迎えられたことは、高く評価されよう。

【見直し又は改善を要する点】

このような大規模な展覧会の場合には、常に混雑という問題が付き纏う。今後も更に混雑対策の見直しを行って、より良い鑑賞環境の整備に努め、魅力ある質の高い展覧会を継続して行うことが重要である。

「大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 」(自主企画展)

方 針

この展覧会は、平成8年に開催した「大英博物館所蔵イタリア素描展」に続く続編で、16 - 18世紀にわたる101点全ての作品を大英博物館から借用した。大英博物館の版画素描部は、およそ200万点と言う膨大な所蔵作品で知られるが、その所蔵品の多さから、1,500点あまりのフランスの素描に関しては、これまでそれほど調査が進まず、まとめて展示されることがこれまでなかった。この展覧会では、通常観覧されることのないフランス素描コレクションに光を当てることが目的であった。

実 績

1. 開催期間 平成14年7月9日(火)～平成14年9月1日(日)(48日間)
2. 会 場 国立西洋美術館 企画展示館 地下2階
3. 主 催 国立西洋美術館、東京新聞、西洋美術振興財団
協 力 日本航空
協 賛 東京海上
助 成 (財)東芝国際交流財団
4. 出品点数 101件
5. 入館者数64,023人(目標入場者数36,000人)
(1日平均1,334人)
6. 入場料金 当日券 一般830(560)円、高大生450(250)円、小中学生無料
前売券 一般700円、高大生350円、小中学生無料
()内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料。
学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても入場無料。
心身に障害のある方及び、付添者は無料。
7. 入場料収入 33,005,970円
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容
ロンドンの大英博物館は、所蔵される数多くのギリシャ彫刻やエジプト美術の傑作を通じてあまりにも有名である。けれども同時にヨーロッパ素描芸術の宝庫であることはあまり知られていない。本展は、大英博物館版画素描部の膨大なコレクションの中より、フランス16世紀から18世紀までの巨匠たちによる素描101点を精選して展示をおこなったものである。16世紀のフォンテーヌブロー派の作品に始まり、17世紀の個性的な芸術家カロ、古典主義の巨匠プッサン、クロード・ロラン、ルイ14世の国王首席画家ル・ブランを経て、ロココの巨匠ヴァトー、ブーシェの作品を紹介した。
王宮がフォンテーヌブローからルーブル、ヴェルサイユへと移るにつれて展開した、ルネサンスからバロック、ロココに至る趣味の変化をうかがうことができるだけでなく、フランスならではの繊細な感覚に貫かれた素描芸術の多様性と、創造の現場に直接立ち会える、素描のみが持つ親密な魅力を堪能できる展覧会となった。
10. 講演会等
2回 参加人数222人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
スライドトーク等
1回 参加人数100人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)
イヤホンガイドの実施
利用者数3,681人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)
11. 広報
新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、チラシ等による幅広い情報の提供と、共催者及

び、各県教育委員会等との連携による広報活動を行った。

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

日本経済新聞(夕刊) 6月3日/10面 「シニアカルチャー」
東京新聞 6月20日/30面
聖教新聞 6月30日/6面
信濃毎日新聞 7月4日/22面
市民タイムス 7月5日/1面 「情報ナビ」
東京新聞(夕刊) 7月8日/8面 「質の高いコレクション」 越川倫明(東京芸術大学助教授)
読売新聞(都民版) 7月8日/28面
東京新聞 7月9日/28面 「きょうから『大英フランス素描展』」
THE DAYLY YOMIURI 7月11日/13面 「SHORT CUTS」
毎日新聞(夕刊) 7月11日/6面
東京新聞 7月11日/26面
The Japan Times 7月17日/13面
朝日新聞 7月18日/7面
東京新聞(夕刊) 7月22日/8面 「アンリ二世の肖像」 樺山紘一(国立西洋美術館長)
東京新聞(夕刊) 7月23日/10面 「ラザロの復活」 高階秀爾(大原美術館長)
東京新聞(夕刊) 7月24日/10面 「犀」 佐藤直樹(国立西洋美術館主任研究官)
東京新聞(夕刊) 7月25日/10面 「桃の花とイトトンボ」 八重樫春樹(崇城大学芸術学部教授)
東京新聞(夕刊) 7月26日/10面 「泉に憩う女性」 中村幸代(音楽家)
港区政新聞 8月1日/3面
日本経済新聞(夕刊) 8月2日/13面 「ART」

【雑誌】

旅なかま 6月号 朝日サンツアー - ズ
Cross World 2002.夏号 (株)ベネッセ・クロス・ワールド
チケットびゅう 6月号 JR東日本 びゅう旅行企画センター
マナビィ 6月号 「Manabee News」 文部科学省
文化庁月報 6月号 イベント案内 文化庁
Cabiネット 2002.NO.5 「EVENT」
横浜ウォーカー 2002.NO.14 角川書店
首都圏イベント情報 7月号 (株)ターミナル情報
京成ライン 7月号 「インフォメーションボード」 京成電鉄(株)
月刊ボザール 7月号 (社)美術愛好会サロン・デ・ボザール
WORLD 7月号 (株)ワールド航空サービス
ZENBI 7月号 「ZENBI SELECTION ART」 全日本美容業生活衛生同業組合連合会
日経マスタース 7月号カレンダー 日経BP社
Ikebana RYUSEI 7月号
定年時代 7月号 「美術」 (株)新聞編集センター
藝術公論 7月号 「展覧会HIGH LIGHT」 アイエフティー(株)
Sings&Displays 7月号 マスコミ文化協会
Chou Chou 7月27日~15日NO.15 「Art」 角川書店

オフィスぱど 7月3日NO.114 (株)ぱど
ぱど 7月5日 NO.700 (株)ぱど
Weeklyぴあ 7月8日 ぴあ(株)
週刊CHINTAI(首都圏版) 7月10日 (株)賃貸住宅ニュース社
Weekly ぴあ 7月15日 ぴあ(株)
DODAデュ-ダ 7月17日 (株)学生援護会
HEADLINE TODAY 7月18日 (株)ヘッドライン
STARS AND STRIPES TRABEL 7月18日 「ART」 星条旗新聞社
Weeklyぴあ 7月22日 ぴあ(株)
Weeklyぴあ 7月29日 ぴあ(株)
家庭画報 8月号 世界文化社
じゃらん(東北版) 8月号 「見ごたえある展覧会で知られる」 リクルート
小さな蕾 8月号 創美社美術出版
りぶる 8月号 自由民主党
東京アートナビ 8月号 生活ガイド社
TOKYO POWER GUIDE 8月号 TOKYO POWER GUIDE
フレサージュ 8月号 (株)ケアウェイ
METROPOLIS 8月2日 「ART」 METROPOLIS
VERY 9月号 光文社

【ネット関係】

JDN(Japan Design Net) デザインイベントエース

METROPOLIS METROPOLIS

1.3. アンケート調査

調査期間 平成14年8月1日~平成14年8月4日(4日間)

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。調査協力者へはポストカードなどの粗品を進呈した。

アンケート回収数 200件

アンケート結果 ・良い79%(158件)・普通20%(40件)・悪い1%(2件)

1.4. 特記事項

小中学生向けに、展覧会への理解を深めるための解説パンフレット(ジュニアパスポート)を作成し、無料で配布することとした。

小中学生の観覧料金無料化に伴い、東京都、神奈川、埼玉、千葉各県教育委員会と連携し、関係機関及び、小中学校へ展覧会についてのPR活動を行った。

大英博物館所蔵フランス素描展コンサート「ルイ14世と15世治下の宮廷音楽」を開催した。(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)

本展は愛知県美術館と連携協力して開催した。(愛知県美術館での展覧会開催期間:平成14年4月26日~6月30日)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

作品選択と調査研究を日本側の国立西洋美術館客員研究員の越川倫明と愛知県美術館の栗田秀法、鯨井秀伸が担当し、貴重な学術交流が達成された。カタログの作品解説は、大きな成果をあげることができ、別冊で制作した英語版は、大英博物館より高い評価を頂いた。

フランスの素描の展開が一堂に会する、教育的に意義のある展覧会となった。それは一般の観客だけにではなく、美術研究者にとってもその展開を改めて総観する貴重な機会であったと思われる。

展示に関しては、素描展というどうしても小品が多くなりがちであるが、今回は大型作品をいくつか借りることができ、展示にメリハリをつけることに成功した。

なお、本年度より小中学生の観覧料金を無料とし、東京都、神奈川、埼玉、千葉各県教育委員会と連携した各教育施設・機関へのPR活動、新聞社等各企業との連携及び、ホームページでの広報活動に積極的に取り組んだ結果、目標を上回る入場者数を達成することができた。特に、この展覧会では小中学生の入場者数が前年度以前の自主企画展を大きく上回っており、子供達が文化芸術に触れる機会を提供するという目標に向けても大きな成果であった。

【見直し又は改善を要する点】

展示会場の照度を、紙作品素描保護のために国際基準の50ルクスまで落とさなければならず、鑑賞者にとって快適ではない環境となってしまったが、作品の保存上必要であることを今後も伝えていく必要がある。

「ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」(共催展)

方 針

ウインスロップ・コレクションは、ハーヴァード大学付属フォッグ美術館に収蔵されているアメリカ屈指の美術コレクションの一つであるが、寄贈者であるウインスロップ氏の遺言により、1943年に寄贈されてから、外部に貸し出されることはなかった。今回、フォッグ美術館の改修にとともに、この秘蔵コレクションが公開されることとなり、国立西洋美術館のほかリヨン美術館、ロンドンのナショナル・ギャラリー、ニューヨークのメトロポリタン美術館で公開されることとなった。

ウインスロップ・コレクションに含まれる西洋美術は、初期イタリア・ルネサンスから近代まで広い範囲に及んでおり、企画の段階では各時代の名品を揃えたいいわゆる「名品展」の形式も考えられたが、東京展ではあえて19世紀イギリス・フランス美術に絞った。さらにこの範囲において、このコレクションの特徴のひとつでもある象徴主義的な傾向に着目し、18作家86点の作品を選択し、4つのテーマに分けて構成した。これにより、印象派などによって代表されるような19世紀ヨーロッパの写実の系譜とは一線を画した、もうひとつの流れを紹介することとした。

実 績

1. 開催期間 平成14年9月14日(土)～平成14年12月8日(日)(74日間)
2. 会 場 国立西洋美術館 企画展示館 地下2階
3. 主 催 国立西洋美術館、東京新聞
協 力 全日空、日本貨物航空、JR東日本、日本通運、朝日生命、西洋美術振興財団
協 賛 昭和シェル石油、東京海上
4. 出品点数 86件
5. 入館者数186,361人(目標入場者数160,000人)
(1日平均2,518人)
6. 入場料金 当日券 一般1,300(950)円、高大生900(510)円、小中学生無料
割引券 一般1,200円、高大生800円、小中学生無料
前売券 一般1,100円、高大生800円、小中学生無料
()内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料。
学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料。
心身に障害のある方及び、付添者は無料。
7. 入場料収入 49,867,480円
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容
アメリカ、ハーヴァード大学付属フォッグ美術館に収蔵されている、アメリカ屈指の美術コレクションの一つであるウインスロップ・コレクションは、写実主義や印象派とは一線を画す近代画家たちの作品が多いことで知られている。本展ではそこに焦点を当てるように作品の選定を行った。現実のイメージと夢のイメージとの間に形成される、西欧近代の欲望や夢や恐れを反映した「想像の系譜」を感じ取ることができる展覧会となった。また、作品の保存上の理由から、フォッグ美術館においてさえも、めったに展示されないバーン＝ジョーンズやブレイクの水彩画、ピアズリーのオリジナル素描なども出品することができ、こうした作品に直接触れることができる極めてまれな機会を得ることができた。
10. 講演会等
3回 参加人数391人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
スライドトーク等

5回 参加人数100人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)
イヤホンガイドの実施
利用者数15,503人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)

11. 広報

新聞、雑誌、テレビ、交通広告、インターネットホームページ、DM、チラシ等による幅広い情報の提供と、共催者及び、各県教育委員会等との連携による広報活動を行った。

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

東京新聞 6月9日

早稲田大学新聞 第2535号 3面 「美術展案内」

松戸よみうり 第533号 8面

多摩川新聞8月12日 3面 「学芸」

都北新聞 8月14日 2面 「催事」

真岡新聞 8月16日 10

聖教新聞 8月24日 9面

教育家庭新聞 8月24日 9面 「読者プレゼント」

千都よみうり 7月24日 5面

しんぶん赤旗 11月1日 9面

旅なかま 9月号 90 「有楽町マリオンまえ」

東京新聞 9月4日 1面 社告

瀬谷新聞 9月6日 2

信濃毎日新聞 9月12日 22面 「東京ガイド」

東京新聞 9月12日 14面,19面

THE DAILY YOMIURI 9月19日 12面 「ART」

朝日新聞(夕刊) 9月20日 13面 「コンパス」

東京新聞(夕刊) 9月21日 1面

東京新聞(夕刊) 9月24日 1面

東京新聞(夕刊) 9月25日 1面

東京新聞(夕刊) 9月26日 1面

東京新聞(夕刊) 9月27日 1面

東都よみうり 9月27日 6面

東京新聞(夕刊) 9月28日 1面

港区政新聞 10月1日 4

定年時代 10月号 9面 「プレゼント」

朝日新聞(夕刊) 10月3日 7面 「ぶらりミュージアム」

Weeklyくりくり No.1321 15面 「芸術の秋上野に行こう」

毎日新聞 10月16日 28面 「今週の1点、美術館ガイド」

ハルト・トビュン イターナショナル 10月18日 30面 「EXHIBITIONS」

東京新聞(夕刊) 11月14日 26面 「ゆめぼっけ首都圏情報」

朝日新聞(夕刊) 11月16日 13面 「1展逸品」

東京新聞 11月18日

読売新聞(夕刊) 11月20日 8面 「いびにんぐスペシャル美術館博物館」

【雑誌】

TOKYO NOTICE BOARD 9/27-10/3号 (株)東京ノーティスボード
月刊日本橋 10月号 日本橋コミュニティーセンター
和楽(和楽美術手帖) 11月号 (株)小学館
月刊一枚の檜 9月号 一枚の檜(株)
タウン紙ファン 8/1号 オフィスファン
広報かさかけNo.342 9月号 笠懸町役場
art magazine 創刊号 アイエフティー(株)
うえの 9月号 上野のれん会
arohVol.45 12月号 aroh news アートコレクションハウス
家庭画報 11月号 ART 世界文化社
NAO(UFJカード会員誌) 10月号 「ART」 (株)ネオ書房
VISA 10月号 「Art」 コミュニケ出版
ゆうゆう 11月号 「ART」 (株)主婦の友社
Weeklyぴあ 9/23号 「ART」 トップックス ぴあ(株)
TOKYO Walker 9/17号 「Art!Pick Up!」 (株)角川書店
RYUSEI 9月号 「ART&LIVING」 龍生華道会
ARTEXNo.24 「ARTEX Information」 (株)美研インターナショナル
C*az 9/23号 「caz cultuer club」(株)扶桑社
MODE et MODE 秋号 「CLIP」 (株)モードエモード社
Chou chou 20号 「Culture」(株)角川書店
Grazia 10月号 「Culture Windows event」 (株)講談社
DODA 9/18号 D-NAVI (株)学生援護会
毎日が発見 9月号 EVENTS エブリデイ出版
月刊ギャラリー 9月号 「EXHIBITION SPOT9月の展覧会スポット」 (株)ギャラリーステーション
STAGE Style vol.12 11月号 「INFORMATION art」 (株)シニアコミュニケーション
築地物語 9・10月号 「INFORMATION PLAZA 美術展」 (株)アドック
KURA 10月号 「KURA的 東京情報」 (株)カントリープレス
POWER GUIDE TOKYO vol.13 「Museum」 POWER GUIDE TOKYO
月刊望星 10月号 「MUSEUM」 東海教育研究所
IKOI 9月号 「Museum」 IKOI Verlag
TIC Monthly 10月号 「MUSEUM SCHEDULE」 日本国際協力センター
実業界 11月号 「NEW Goods 旬の情報」 (株)実業界
草月 263号 「NOTICE BOARD」 草月文化事業 (株)出版部
メトロポリス NO.442 「OUT ON THE TOWN」 CRISS CROSS KK
UNIVERS DES ARTS JAPON 6号 「Points de vve」 (株)朝日アートコミュニケーション
THE JAPAN TIMES 10/9号 「RE:ARTS」 ジャパンタイムス社

【ネット関係】

Webサイト美術館.Com 音楽之友社
こどもぼるた 保険銀行日報社
eArt ANA全日空
KEY COFFEE COFFEE BREAK ANA全日空

御堂筋ホームページ (株)新潮社

STAGE (株)クオールコミュニケーションズ

13. アンケート調査

調査期間 平成14年11月21日～平成14年11月24日(4日間)

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。調査協力者へはポストカードなどの粗品を進呈した。

アンケート回収数 600件

アンケート結果 ・良い84.8%(509件) ・普通13.7%(82件) ・悪い10.8%(5件)
・無回答0.7%(4件)

14. 特記事項

共催者の協力を得て小中学生の観覧料金を無料とした。また、展覧会への理解を深めるための小中学生向け解説パンフレット(ジュニアパスポート)を作成し、無料で配布することとした。

小中学生の観覧料金無料化に伴い、東京都、神奈川、埼玉、千葉各県教育委員会と連携し、関係機関及び、小中学校へ展覧会についてのPR活動を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

出品作品の決定から作品の輸送、展示、図録編集のための情報交換などに至るまで、フォッグ美術館の館長、担当学芸員、作品管理担当者などとの連携は円滑に行われた。ただ、50年以上にも渡ってフォッグ美術館から外に出たことがない作品ばかりであったことから、作品の保存状態がきわめて悪く、通常よりも輸送や展示には神経を使った。今回は作品の状態点検と展示、撤去の日数にとくに問題は生じなかったが、今後とも十分な余裕をとることの必要性をあらためて認識した。また、フォッグ美術館側からの要請により、会期中、作品の状態点検を定期的に行ったが、このことは作品の管理上効果的であった。

バーン＝ジョーンズやロッセッティ、ピアズリー、ブレイクといったイギリスの画家とモローやアングルなどのフランスの画家をとり混ぜた構成は、当初一般の観覧者にはなじみが薄いのではないかと予想された。しかしながら展覧会が開いてみると、印象派のような大衆的人気とは異なっているものの根強い愛好家がいることがわかった。同じ人が2度3度と展覧会場に足を運んでいたことや、図録の購買比率が高かったこと、観覧者の会場滞留時間が長かったことなどがそれを裏付けている。

【見直し又は改善を要する点】

ヨーロッパ近代美術を紹介する企画においても、今後とも多角的な視点に立ち、さまざまな嗜好をもつ観客のニーズに応えていくことが必要であると考えている。

(2) 貸与・特別観覧の状況

中期計画

(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。

実績

1. 貸与・特別観覧の件数

貸与 3件 16点

特別観覧 58件 107点

2. 特記事項

作品の貸与条件及び、貸与の推進方策について、柔軟な対応が図れるよう内容の検討を続けている。

貸出先

州立シュトゥットガルト美術館(ドイツ)(絵画1点)

愛知県美術館(版画3点)

町田市立国際版画美術館(参考作品12点)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

貸し出し依頼のあった展覧会には、企画の内容、輸送・展示に伴う様々な条件、さらには当館の展示プログラムなどとの整合性を考慮した上で、可能な限りの協力を行った。

【見直し又は改善を要する点】

貸与の推進について十分とは言えないため、貸与の推進方策の検討を引き続き行い、今後は作品の保全と公開とのバランスを考えながら、より積極的に取り組んでいく所存である。

*添付資料

貸与件数等の推移(定量的数値推移一覧 p.8)

特別観覧件数の推移(定量的数値推移一覧 p.9)

3 . 調査研究

中期計画

(1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。

- <1> 収蔵品に関する調査研究
- <2> 美術作品に関する調査研究
- <3> 収集・保管・展示に関する調査研究
- <4> 美術史、美術動向、作者に関する調査研究
- <5> 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等

(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。

(2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

実 績

1 . 調査研究

(1) 収蔵品の調査研究

旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究

中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究

美術館情報資料に関する調査研究

美術館教育に関する調査研究

(2) 展覧会のための調査研究

展覧会に関わる調査研究

(3) 科学研究費補助金による調査研究

「油絵具の乾燥における脂肪酸組成の変化に対する顔料の影響」の研究

「博物館の機能及びその効果的な運営の在り方に関する実証的研究」の研究(研究分担者として)

(4) 保存・修理に関する調査研究

西洋美術作品の保存修復に関する調査研究

2 . 客員研究員等の招聘実績 7人(年度計画記載人数:7人)

美術館教育に関する調査研究

美術館教育研究家 佐藤 厚子

石造彫刻の洗浄処置ならびに表面処理の研究

宮城県立美術館副主任研究員 藤原 徹

作品輸送時における振動調査の共同研究

石橋財団美術品担当課長 石橋 亨

情報、広報事業等に関する指導・助言

日本美術研究家 マーサ・マクリントク

大英博物館所蔵フランス素描展調査研究、企画等協力

東京芸術大学美術学部助教授 越川 倫明

ウインスロップ・コレクション展調査研究、企画等協力

一橋大学助教授 喜多崎 親

展覧会に関する音楽プログラムの調査研究、企画等協力

東京芸術大学演奏芸術センター助手 瀧井 敬子

3 . 大学院との連携協力

平成14年度より、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力について協定を締結し、2名の大学院生を受け入れた

併任教官 教授：学芸課長 幸福 輝

助教授：主任研究官 寺島 洋子

4. 調査研究費 予算額 17,043,000円 決算額 78,160,704円

5. 特記事項

外国人研究員3名の招聘、大学等における非常勤講師、他機関の運営委員会・作品購入委員会に参加するなどして、国内外の施設機関及び、外部研究者と交流・意見交換を行い、積極的な研究成果の発表に努めた。

ジェームズ・クノー（フォッグ美術館館長）

ステファン・ウォロフォジアン（フォッグ美術館絵画部学芸員）

ミリアム・スチュワート（フォッグ美術館素描部学芸員）

平成14年度より初めて国立西洋美術館在外研究員を開始し、1名を派遣した。

平成14年6月24日～15年7月25日

「1910年代における仏独の前衛画家たちの交流と相互影響に関する調査研究」

主任研究官 田中 正之

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

個々の展覧会の準備に伴う研究調査と各人の専門領域での研究においては、充実した展覧会が実施されたと思われる。（展覧会カタログや研究紀要を参照）

【見直し又は改善を要する点】

タピスリーに関しては展覧会開催という具体的な目標があったこともあり十分な成果があったが、他の所蔵作品の調査についても、具体的な展望からの調査研究を今後の課題としたい。

4 . 教育普及

- (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。
- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。
- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。
- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キューレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。
- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。
- (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。
- (6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

方 針

「児童生徒を対象とした活動」、「教員を対象とした活動」、「一般を対象とした活動」、「研究者や専門家を対象とした活動」を計画的に実行して美術館に親しむ機会を提供し、多様な学習活動の支援と、学校教育や社会教育機関との連携・協力を努める。

実 績（総括表）

(1) - 1 資料の収集及び公開

収集件数 2,035件

公開場所

・企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター

（西洋美術史などの研究者を対象とした資料センターとして、西洋美術史研究図書、雑誌、マイクロフィッシュ等の資料約104,900点を所蔵し公開している。）

利用者数 178人

貸出件数 593件

・本館1階 資料コーナー

(一般の利用者向けに本館1階のフリーゾーンに設置し、展覧会カタログ、年報、要覧など、過去およそ10年分の当館の出版物と、全国美術館案内や美術事典などを公開している。)

本館1階資料コーナーはフリーゾーンとしているため多数の利用者があるが、利用者数の集計はしていない

(1) - 2 広報活動の状況

刊行物による広報活動 9種 15冊

『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』(年4回発行(春、夏、秋、冬))等の刊行物を発行し、美術館の理解と利用の促進に向けて広報活動を行い、積極的に情報の発信に努めている。

ホームページによる広報活動

ホームページでは、コレクション、展覧会情報、講演会・スライドトーク等のイベント、交通・利用案内、館内施設案内などを常時掲載し、適時更新を行っている。海外からのアクセス向けには英語版のホームページを整備し、ホームページの活用と普及及び広報体制の充実を積極的に推進している。

今年度は、視覚障害者向け音声案内機能の追加や、携帯電話用(iモード等)のコンテンツを作成して広報機能の充実を図った。また、インターンシップ募集等の事業案内についてホームページを積極的に利用し、申請書用紙のダウンロード等の情報配信を行った。

マスメディア等による広報活動

展覧会や美術館の活動についてマスメディア等への情報提供を行い、取材、撮影への協力を積極的に行うなどして美術館事業の広報普及に努めている。

(1) - 3 デジタル化の状況

今年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数 949件

(2) - 1 児童生徒・教員を対象とした事業

「手と心 モネ、ドニ、ロダン」展 1回

子どもから楽しめる美術展「手と心 モネ、ドニ、ロダン」は、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず常設の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。

ワークショップ(創作・体験プログラム)	6回	75人
ウィークエンド・ファミリー・プログラム	ツール貸出件数212件	利用者642人
スクール・ギャラリートーク	28校	679人
先生(小・中・高等学校教員)のための鑑賞プログラム	7回	188人
団体訪問者(学校・団体)への解説	28校	860人

(2) - 2 講演会等の事業

講演会	9回	1,058人
スライドトーク	3回	361人
ギャラリートーク	6回	170人
音楽プログラム	1回	100人
イヤホンガイド	3回	58,358件

(3) - 1 研修の取組

第11回美術館・歴史博物館学芸員専門研修会 58名

他の機関が実施する研修への協力を実施 133人

(3) - 2 大学等との連携

東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力 2名
国立西洋美術館インターンシップ 8名(西洋美術史2名、教育普及6名)

博物館実習生 1名(日本大学芸術学部)

(3) - 3 ボランティアの活用状況

ボランティア導入に向けての検討を実施した。今後も引き続きボランティア受け入れについて検討を進める。

(4) 渉外活動

新聞社、団体・企業等と連携し、企画・運営・広報・輸送等の協力を得た。

(5) 教育普及経費 予算額 99,709,000円 決算額 82,587,539円

(6) 特記事項

平成13年度までの開室の準備を経て、本年度より研究資料センターが本格的に開室した。

7月と8月の日曜日に、低年齢層の子どもと大人(家族連れ)が様々な道具を使いながら観賞し、一緒に楽しめる「ファミリープログラム」を実施し、教育普及活動の充実を図った。

ホームページデザインとコンテンツを全面改訂し、視覚障害者向け音声案内機能の追加や、携帯電話用(iモード等)のコンテンツを作成して広報の充実を図った。

インターンシップ募集等の事業案内について、ホームページを積極的に利用し情報配信を行った。

資料の活用策について、他機関と連携協力した共通検索システム開発などの具体化に至っていない。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今年度は、充実した既存の活動に加え、特筆されることは、幾つかの新規事業、プログラムを開始したことである。研究者や専門家を対象とする研究資料センター、将来の美術館を担う学生の育成を目的としたインターンシップ制度、低年齢層の児童とその家族を対象とするファミリープログラム、ホームページのデザイン改訂など、多様な利用者に対応するサービスを拡大し、評価に値する結果を得ることができた(詳細は各項目の評価と実績を参照されたい)。

【見直し又は改善を要する点】

資料の活用策について十分とは言えず、改善の余地がある。他機関と連携協力し、検索システムの開発など一緒に取り組んでいきたい。今後は限られた人員の中で、これらの新規事業について、初年度の反省を基に質的な改善を行い、既存の事業も含め当館の教育普及事業のさらなる充実を図りたい。

*添付資料

教育普及一覧(定量的数値推移一覧表 p.11)

(1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況

中期計画

(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

実績

1. 収集

件数 2,035件

2. 公開

(1) 企画展示館事務棟地下1階

公開場所 研究資料センター

公開日数 99日

公開件数

・公開資料数 約104,900件

・公開請求件数 265件 593点(請求による出納件数のみ、開架書架の利用件数は含まない)

(2) 本館1階

公開場所 資料コーナー(フリーゾーン)

公開日数 302日間

公開件数

・公開資料数 238件(84タイトル119点×2セット)

3. 特記事項

平成13年度までの開室の準備を経て、本年度より研究資料センターが本格的に開室した。

国内外の美術館等との交換図書等による資料の積極的収集を図った。

交換件数461件(国内226件、海外235件)

公開資料内訳

図書約25,900冊

雑誌約41,700冊(タイトル数は約1,400タイトル)

マイクロ資料約37,300点(マイクロフィッシュ約37,200枚、マイクロフィルム約130本)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今年度から西洋美術史など学術研究のために当館の資料を必要とする研究者に対し、本格的に研究資料センターを稼働して資料を公開し、十分な意義があったものと自負する。

【見直し又は改善を要する点】

当館の資料は質量ともに龐大なものに達するが、最重要の資料に欠落があったり、近刊書が入手されないといった不具合も発生しているので、今後も収集を継続して実施する必要がある。

研究資料センターにおいては、利用者が必ずしも多くはないという現状がある。利用状況などを十分に把握し、今後の運営に反映させたいと考えている。

(1) - 2 広報活動の状況

中期計画

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。

また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

実績

1. 広報誌名

(1) 『国立西洋美術館年報 No. 36 (April 2001 - March 2002)』

発行年月日 平成15年1月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

(2) 『国立西洋美術館研究紀要 No. 7』

発行年月日 平成15年3月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

(3) 展覧会に伴う図録

ア. 『大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 』

イ. 『ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画』

ウ. 『織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 』

エ. 『大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 』(英語版)

発行年月日 4回発行(発行回数4回)(年度計画記載発行回数無し)

料金 ア. 2,500円、イ. 2,500円、ウ. 1,200円、エ. 無償(販売無し)

配布先 会場内販売、国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

特記事項

(4) 『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』No. 11~No. 14

発行年月日 平成14年5月20日、8月20日、11月20日、平成15年2月20日 4回発行(発行回数4回)(年度計画記載発行回数4回)

料金 無償

配布先 会場内配布、修学旅行計画のための学校等

特記事項

・展示予定表も併せて掲載した。

・発行にあたり(財)西洋美術振興財団より助成を得た。

(5) 『平成14年国立西洋美術館要覧』

発行年月日 平成14年5月1日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

(6) 『展示予定表』(『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』No. 11~No. 14に併せて掲載)

発行年月日 平成14年5月20日、8月20日、11月20日、平成15年2月20日 4回発行(発行回数4回)(年度計画記載発行回数4回)

料金 無償

配布先 会場内配布、修学旅行計画のための学校等

(7) 『ジュニアパスポート』

ア. 『大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 』

イ. 『ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画』

発行年月日 2回発行(発行回数2回)

料金 無償

配布先 小中学生入場者、学校等教育機関

特記事項

『ウインスロップ・コレクション展ジュニアパスポート』の発行にあたり、東京新聞より助成を得た。

(8) 『ポケットガイド 西洋版画の見かた』

発行年月日 平成15年3月1日 1回発行(発行回数1回)

料金 700円

配布先 会場内販売、国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

(9) 『国立西洋美術館所蔵作品カタログ 絵画・彫刻・工芸』

発行年月日 平成15年3月31日 1回発行(発行回数1回)

料金 1,500円

配布先 会場内販売、国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

2. 特記事項

インターネットを活用した広報については、現在のところ当館のホームページがメインであり、十分なインターネット活用の具体化に至っていない。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

本年度は新たな取り組みを行い、小中学生向けの展示解説パンフレット(ジュニアパスポート)、鑑賞の際の理解を支援するポケットガイドを導入し、大変有効であった。

【見直し又は改善を要する点】

インターネットを活用した広報については、今後も館内において活用方法について検討する必要がある。

(1) - 3 デジタル化の状況

中期計画

- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。
また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

実績

1. 所蔵作品のデジタル化

今年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数 949件

平成14年度未収蔵作品数 4,240件

平成14年度未データベース化、デジタル化作品数 4,240件

今後のデジタル化の対応 新規に取得した作品についてデジタル化、データベース化を予定

2. ホームページのアクセス件数(平成12年度アクセス件数275,000件)

トップページアクセス件数 601,117件(日本語トップページ486,459件、英語トップページ14,658件)

ホームページ総アクセス件数 16,983,766件

3. デジタル化した情報の公開

HP等による公開件数 231件

4. 特記事項

ホームページデザインとコンテンツを全面改訂し、視覚障害者向け音声案内機能の追加や、携帯電話用(iモード等)のコンテンツを作成して広報の充実を図った。

インターンシップ募集等の事業案内について、ホームページを積極的に利用し情報配信を行った。

美術作品に関する情報のデータベース化について、利用者が簡便な方法でアクセスし、必要な情報を取り出すことが出来るシステム開発に至っていない。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今年度新たに絵画及び、彫刻作品の管理情報についてデータベース化を行い、収蔵作品全4,240件のデータベース化を達成した。また、昨年度末から今年度にかけて行ったホームページのデザイン改訂後、常設展案内のページに既存の27作品のデジタル画像を掲載した。館内の美術情報コーナーのデジタルギャラリーについては、昨年同様のプログラムを継続して掲載しており、現在204点の公開が可能となっている。

なお、今年度は平成12、13年度を大幅に上回るホームページアクセス件数を得ることができ、ホームページのデザイン改訂による効果があったものと思われる。今後も継続してホームページのコンテンツを工夫し、作品データの追加をするなどして活用に努めたい。

【見直し又は改善を要する点】

作品管理用として全収蔵作品のデータベース化を達成した。今後はこのデータベースを土台として活用し、他用途への積極的な利用を図っていきたいと思うが、その際、他の機関と連携した公開システムを構築することによって、更に効率的な運用が可能になるとと思われるので、この事を踏まえて今後も検討を続けていく必要がある。

(2) - 1 児童生徒を対象とした事業

中期計画

(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。

また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

実績

1. 事業名 子どもから楽しめる美術展「手と心 モネ、ドニ、ロダン」及び、関連プログラム 36回
ア. 「手と心 モネ、ドニ、ロダン」

開催期間

平成14年6月18日(火)～9月1日(日)(66日間)(開催場所:本館、新館)

参加者数

子どもから楽しめる美術展は、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、常設展示と併設、または、特別に展覧会という形式をとらず常設の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。

担当した研究員数 3人

事業内容

特別に展覧会という形式をとらず、常に美術館に展示されているモネ、ドニ、ロダンの作品を対象とするプログラムを行った。

アーティストが制作を通して何を追求しようとしてきたかは、どのような表現方法を用いたか、そして時代を追って作品に表現されたスタイルが、どのように変化してきたかを見ることにより探りだせる。このような視点から、モネ、ドニ、ロダンの作品を通して、それぞれの手と心(作品に用いられた表現方法と考え)の関係について考えてみるプログラムである。

特記事項

プログラム協力:西洋美術振興財団

イ. 創作・体験プログラム「アーティストのここが好き!!」

開催期間

1回目:平成14年7月25日(木)、26日(金)、8月1日(木)、2日(金)

2回目:平成14年8月22日(木)、23日(金)、29日(木)、30日(金)

(4日間で1つのプログラム。内容は1回目、2回目とも同じ、各日午前10時～午後5時)

参加者数 19名

担当した研究員数 3人

事業内容

モネ、ドニ、ロダンの作品を見た後、その中から心ひかれたアーティストを選び、そのアーティストの表現のどこに、どうして心ひかれたのかを考えながら、作品から受けたイメージを自分なりに表現してみるプログラム。

ウ. 創作・体験プログラム「表現方法を考える」

「チューブ絵具は絵画をどう変えたか？」

講師 真鍋 千絵(東北芸術工科大学助教授)

開催期間

平成14年7月21日(日) 午前10時~午後5時

参加者数 17名

担当した研究員数 4人

事業内容

チューブ絵具を使わずに、モネやドニの絵は描けるのか? 絵具の歴史を辿りながら、常設展示で各時代の作品の絵画技法を見たり、チューブ絵具が無かった時代のように自分で絵具を作ってみたりするプログラム。

エ. 創作・体験プログラム「表現方法を考える」

「現代作家の表現方法」

講師 辰野 登恵子(画家)

開催期間

平成14年7月28日(日) 午前10時~午後5時

参加者数 13名

担当した研究員数 4人

事業内容

本プログラムの講師である辰野氏は、目に見えるものや現象へのこだわりから生まれるイメージを追求して、魅力的な色と形の世界を描いている。辰野氏に、その手と心の関係について話を聞いたあと、様々な材料を使いながら自分の色と形を発見していくプログラム。

オ. 創作・体験プログラム「表現方法を考える」

「現代作家の表現方法」

講師 中沢 研(美術家)

開催期間

平成14年8月4日(日) 午前10時~午後5時

参加者数 13名

担当した研究員数 4人

事業内容

本プログラムの講師である中沢氏は、絵画の画面がフレームによって規定されるように、空間にフレームを持ち込んで、その空間を変容させようと試みている。中沢氏に、その手と心の関係について話を聞いたあと、針金を使ってある空間を変容させてみるプログラム。

カ. 創作・体験プログラム「表現方法を考える」

「現代作家の表現方法」

講師 河田 政樹(美術家)

開催期間

平成14年8月25日(日) 午前10時~午後5時

参加者数 13名

担当した研究員数 4人

事業内容

本プログラムの講師である河田氏は、様々なメディアを使ってアートとは何かを問い続けている。河田氏に、その手と心の間わりについて話を聞き、アートとアートでないものについてディスカッションしたり、日用品をアートにしたりするプログラム。

キ. ウィークエンド・ファミリー・プログラム「びじゅつーる」

開催期間

7月と8月の日曜日(7/7、14、21、28、8/4、11、18、25) 午前10時～17時(随時)

参加者数 212件 642名

担当した研究員数 2人

事業内容

夏季に開催した「手と心 - モネ、ドニ、ロダン」展に関連して、7月と8月の日曜日に行った。モネ、ドニ、ロダンの作品を、人形など様々な道具(ツール)を使いながら、あるいはクイズに答えながら、ご家族で自由にギャラリー探検を楽しんでいただくプログラム。これらの道具やクイズは一つの袋にまとめ、“びじゅつーる”と名付けて展示場の入り口で貸し出した。

ク. スクール・ギャラリートーク

開催期間

プログラム期間中の平日(火～金曜日)午前9時30分～午後3時(要予約)

参加者数 679名(利用学校数:28校(小学校8、中学校12、高校6、中高合同1、大学1))

担当した研究員数 3人

事業内容

小・中・高校生の団体(50名以下)を対象に、「手と心 - モネ、ドニ、ロダン」展の内容に合わせたギャラリートークを行った。

2. 先生(小・中・高等学校教員)のための観賞プログラム 7回

ア. 「大英博物館所蔵フランス素描」展観賞プログラム

開催期間

平成14年8月2日(金) 午後5時30分～ 参加者数22名

平成14年8月3日(土) 午後2時～ 参加者数22名

参加者数 44名

担当した研究員数 3人

事業内容

「教員を対象とした活動」として、企画展開催時に教員を対象とする観賞プログラムを行っている。日頃、多忙な教員に、展覧会を楽しんでもらうことが目的であり、展覧会の趣旨や作品について説明した後、自由に展覧会をご観賞いただいた。

イ. 「ウインスロップ・コレクション」展観賞プログラム

開催期間

平成14年9月20日(金) 午後5時30分～ 参加者数31名

平成14年9月21日(土) 午後2時～ 参加者数20名

参加者数 51名

担当した研究員数 3人

事業内容 同上。

ウ. 「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」観賞プログラム

開催期間

平成15年3月28日(金) 午後5時30分~

参加者数 18名

担当した研究員数 3人

事業内容 同上。

エ. 教育普及プログラム「手と心 モネ、ドニ、ロダン」趣旨説明会

開催期間

平成14年6月21日(金) 午後5時~

参加者数 59名

担当した研究員数 3人

事業内容

講堂で教育普及プログラム「手と心 モネ、ドニ、ロダン」趣旨及び、スクール・ギャラリートークの説明の後、常設展示室で該当作品の確認をし、質疑応答を行った。

オ. 先生のための研修会「学校と美術館をつなぐ、よりよい美術館利用のための研修会」

開催期間

平成14年11月1日(金) 18時~20時

参加者数 16名

担当した研究員数 3人

事業内容

学校にとってよりよい美術館利用とは何かを探るため研修会を開催し、意見交換(事前アンケートをもとに、当館に希望することの詳細について)、展覧会のできるまでを解説(ウインスロップ・コレクション展を例に美術館の仕事に関する話)、バックヤード・ツアー(搬入口~エレベーター~企画展示倉庫を見学)を行った。

3. 団体訪問者(学校・団体)への解説 28回

実施期間 随時

実施場所 講堂、常設展示室、その他

利用者数 28校 860人

担当した研究員数 2人

事業内容

要請のあった教育関係団体に個別に対応し、コレクション、美術館や学芸員の仕事などの解説を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

児童生徒を対象とした事業は、1.夏期に企画される所蔵作品を中心としたプログラム、2.教員を対象に、各特別展ごとに教員のための観賞プログラム、Fun with Collection の趣旨説明会、美術館と教員の意見交換をおこなうための研修会、3.一年を通して随時来館する学校団体への対応を実施した。また、特別展の際に無料配布するジュニアパスポートの作成を行った。

1及び、2について

国立西洋美術館の所蔵作品を中心に、子どもから大人までの幅広い年齢と知識の人々を対象とする夏期の企画は、本年より事業名をFun with Collectionとした。本年は「手と心・モネ、ドニ、ロダン」を実施。小・中・高校の教員を対象に事前に趣旨説明会を行った結果、中学・高校のギャラリートークへの参加が増加した。さらに、関連プログラムにも、中学・高校の美術クラブの教員と生徒と一緒に参加するなど、これまでにないグループでの参加がみら

れ、以前と比べ年齢が上の生徒数が増加するという好結果が得られた。しかし、今回初めて試みた4日間のプログラムでは、開催時期が学校の夏季行事とぶつかり、参加者が集まらないという事態もあった。また、本年はこれまで特別に対応してこなかった家族来館者(大人と未修学児童および小学校低学年)に対し、インターンを活用して作品観賞のためのツールを開発してファミリープログラムを実施した。夏季に多くの家族がこれを利用してモネ、ドニ、ロダンの作品を観賞して好評を得ることができた。

3について

通年受け入れている学校からの団体・グループ訪問については、修学旅行シーズンの春と秋に依頼が集中した。Fun with Collectionと異なり、各団体への対応はそれぞれが希望する内容に沿う形で、コレクション、美術館や学芸員の仕事などの解説を行った。教育改革によって、美術館訪問を総合学習の一部として来館する中学校が何校もあったが、総合学習で美術館をどのように活用するかという点で学校側もまだ十分な検討がなされていないと感じた。

本年度より常設展、当館主催の特別展の入場料金を、小・中学生については無料とするのを契機に、共催展についても共催者の協力を得て、今年度当館で開催された展覧会はすべて小・中学生は無料となった。小・中学生に対し門戸を広げると同時に、来館した児童・生徒が展覧会を鑑賞するためのガイドとして特別展ごとにジュニアパスポートを作成し、無料配布した。

本年は新たにファミリープログラムを実施してより幅広い層への対応を充実させるとともに、中学校・高校からのプログラム参加が増加するなど、充実した活動が行われた。また、特別展のジュニアパスポートは、家族で来館した大人にも好評であった。

【見直し又は改善を要する点】

今後の課題として、総合学習への対応だけでなく、週末のプログラムを企画する際にも教員との交流を密に保つことによって、プログラム内容の充実とより効果のある開催時期を検討したい。また、団体で来館する児童・生徒に対応するマンパワーが現在は不足している。さらに当館には、創作・体験プログラムなどの実技や作業を伴うプログラムを行う専用のスペースがないことも問題となっている。今後は、恒常的に使用できるスペースおよび人材の確保を検討する必要がある。

(2) - 2 講演会等の事業

中期計画

- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

実績

1. 企画展における講演会 9回(年度計画記載回数:各企画展2~3回)

参加者総数 1,058人(平成12年度実績770人)

ア.「プラド美術館-スペイン王室コレクションの美と栄光」 4回 (本展の講演会は、他に平成13年度4回実施している)

開催期間 4日間

平成14年4月20日(土) 午後2時~3時30分 参加者数115人

テーマ:「ゴヤとブルボン朝の宮廷美術」

講師:昭和女子大学助教授 木下 亮

平成14年4月27日(土) 午後2時~3時30分 参加者数124人

テーマ:「ベラスケスと宮廷肖像画」

講師:早稲田大学教授 大高 保二郎

平成14年5月11日(土) 午後2時~3時30分 参加者数115人

テーマ:「プラド美術館:王室コレクションからパブリック・コレクションへ」

講師:ニューヨーク大学教授 ジョナサン・ブラウン

平成14年6月1日(土) 午後2時~3時30分 参加者数91人

テーマ:「スペインの静物画」

講師:横浜美術館館長 雪山 行二

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 445人

担当した研究員数 3人

事業内容

企画展示会の展示作品を中心に、その展示会を理解する上で欠かすことのできない重要な歴史・文化・知識についての講演会を開催した。

アンケート結果(回答数134件)

・大変良い51.5%(69件)・良い38.9%(52件)・あまり良くない5.2%(7件)・良くなかった0.7%(1件)・無回答3.7%(5件)

イ.「大英博物館所蔵フランス素描展-フォンテーヌブローからヴェルサイユへ-」 2回

開催期間 2日間

平成14年7月27日(土) 午後2時~3時30分 参加者数92人

テーマ:「フランス近世絵画と素描」

講師:愛知県美術館学芸員 栗田 秀法

平成14年8月10日(土) 午後2時~3時30分 参加者数130人

テーマ:「イタリアからフランスへ:フォンテーヌブロー派の美術」

講師:東京芸術大学助教授 越川 倫明

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 222人

担当した研究員数 3人

事業内容 同上。

アンケート結果(回答数147件)

・大変良い38.1%(56件)・良い53.1%(78件)・あまり良くない3.4%(5件)・良くなかった0%(0件)・無回答5.4%(8件)

ウ.「ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」 3回

開催期間 3日間

平成14年9月14日(土) 午後1時~4時 参加者数140人

テーマ:「ウインスロップ・コレクションと教育機関としてのフォッグ美術館」

講師:フォッグ美術館館長 ジェームズ・クノー

テーマ:「グレンヴィル・ウインスロップ:蒐集家とそのコレクション」

講師:フォッグ美術館絵画部学芸員 ステファン・ウォロフォジアン

テーマ:「ウインスロップとイギリス美術」

講師:フォッグ美術館素描部学芸員 ミリアム・スチュワート

平成14年10月19日(土) 午後2時~3時30分 参加者数114人

テーマ:「ロセッティ絵画の身振りと言葉」

講師:筑波大学講師 山口 恵里子

平成14年11月2日(土) 午後2時~3時30分 参加者数137人

テーマ:「侵出するヴィジョン」平成14年7月27日(土) 午後2時~3時30分

講師:一橋大学大学院助教授 喜多崎 親

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 391人

担当した研究員数 3人(9月14日は7人)

事業内容 同上。

アンケート結果(回答数100件)

・大変良い64.0%(64件)・良い33.0%(33件)・あまり良くない10%(0件)・良くなかった0%(0件)・無回答3.0%(3件)

2. スライドトーク等 10回(年度計画記載回数:各企画展2~3回)

参加者総数 631人(平成12年度実績700人)

ア.「ブラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」スライドトーク 3回

(本展のスライドトークは、他に平成13年度2回実施している)

開催期間 平成14年4月12日(参加者数143人) 4月26日(参加者数94人) 5月10日(参加者数124人)(3日間)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 361人

担当した研究員数 3人

事業内容 展覧会の見所、主な作品について、講堂でスライドトークを開催した。

アンケート結果(回答数144件)

・大変良い36.1%(52件)・良い56.9%(82件)・あまり良くない0.7%(1件)・良くない10%(0件)・無回答6.3(9件)

イ.「ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」ギャラリートーク 5回

開催期間 平成14年9月27日、10月11日、10月25日、11月2日、11月22日(5日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 100人(各回満員、定員20人×5日)

担当した研究員数 3人

事業内容 展覧会の見所、主な作品について、ギャラリーで解説を行った。

アンケート結果(回答数12件)

・大変良い25%(3件)・良い67%(8件)・あまり良くない0%(0件)・良くない0%(0件)・無回答8%(1件)

ウ.「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」ギャラリートーク 1回

開催期間 平成15年3月28日(1日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 70人

担当した研究員数 3人

事業内容 タピスリーと絵画の関係について、染織技法の話も交えながら、ギャラリーで解説を行った。

アンケート結果 未調査

(本展覧会のギャラリートークは平成15年度にも2回予定されており、アンケート調査は平成15年度に実施の予定である。)

エ.「大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 」コンサート 1回

音楽プログラム「ルイ14世と15世治下の宮廷音楽」

企画・進行：瀧井 敬子(東京芸術大学演奏芸術センター)

演奏：竹内 太郎(パロック・ギター) 東京芸術大学学生有志

ダンス：市瀬 陽子(パロック・ダンス)

開催期間 平成14年8月30日(金) 午後17時～19時

開催場所 企画展示館展示ロビー

参加者数 100人

担当した研究員数 3人

事業内容

元来、一つの時代、あるいは文化の中で互いに影響しながら発展してきた美術と音楽。その二つを今一度近づけることにより、音楽を通して美術をより広い視野から楽しんでもらうことを目的として開催した。

3. イヤホンガイドの実施(共催展2回、特別展1回実施)

利用者総数 58,358人

ア.「プラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」

実施期間 平成14年3月5日(火)～平成14年6月16日(日)(67日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 39,174人

担当した研究員数 1人

事業内容

観覧者が展覧会の趣旨、作家、作品についてさらに理解を深めることを支援し、楽しむことができるようイヤホンガイド解説を実施。

アンケート結果(回答数124件)

・よく理解できた54.9%(68件)・だいたい理解できた45.1%(56件)・わかりづらかった0%(0件)・無回答0%(0件)

イ. 「大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 」

実施期間 平成14年7月9日(火)～平成14年9月1日(日)(48日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 3,681人

担当した研究員数 1人

事業内容 同上。

アンケート結果(回答数18件)

・よく理解できた50.0%(9件)・だいたい理解できた44.4%(8件)・わかりづらかった0%(0件)・無回答5.6%(1件)

ウ. 「ウィンスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」

実施期間 平成14年9月14日(土)～平成14年12月8日(日)(75日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 15,503人

担当した研究員数 1人

事業内容 同上。

アンケート結果(回答数78件)

・よく理解できた57.7%(45件)・だいたい理解できた35.9%(28件)・わかりづらかった0%(0件)・無回答6.4%(5件)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

本年も例年同様に、特別展ごとに複数の講演会、スライドトークあるいはギャラリートークを実施し、さらにイヤホンガイドを用意した。また、「大英博物館所蔵フランス素描展」では、東京芸術大学音楽学部演奏芸術センターの協力により、展示作品と同時代のフランス宮廷における音楽とダンスをテーマにレクチャー・コンサートを開催した。

ブラド展においては、かなり意欲的に講演会を実施した。また、国内の専門家による講演会だけでなく、展覧会に関連した海外の美術館関係者や専門家を招いての講演会も複数企画した。同時通訳という不便さはあるが、西欧の美術を専門とする当館では、こうした海外の講演者から直接話を聞く機会を設ける意義は大きく、来館者にとっても貴重な体験になったと思われる。

現在では美術と音楽という異なるジャンルとして観賞されている二つの芸術を、再度関連づけることによって美術の楽しみ方に広がりを持たせることを目的としたコンサートは、昨年同様に充実した内容で来館者にも好評であり、定員は100名であったが、それを超えて立見のお客様も多く会場は満員となった。

【見直し又は改善を要する点】

今後は、講演会についても専門的な知識や情報を提供すると共に、他分野との関連において語られる講演会も企画することを検討したい。また、展示会場で行うギャラリートークでは、参加者に無線のイヤホンを渡すなどして聴講者以外の観覧の妨げにならないよう配慮する試みを行い工夫が図れたが、混雑時において更に有効な対応策の検討は今後も課題である。

(3) - 1 研修の取組

中期計画

- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。

実績

1. 第11回美術館・歴史博物館学芸員専門研修会

研修期間 平成15年1月27日(月)～1月31日(金) (5日間)

開催場所 企画展示館講堂、展示ロビー

参加者数 58人(平成12年度実績無し)

平成14年度新規事業

担当した研究員数 1人

事業内容

公私立の美術館・歴史博物館の学芸員や学芸業務を担当する専門職員等を対象に、学芸業務に関する専門的知識・技能の向上を図る研修を行った。なお、本研修会は文化庁と共催した。

講義内容

特別講義

歴史学と美術館・博物館(平成15年1月27日)

・文化行政

文化財保護について(平成15年1月27日)

文化財保護と国際条約(平成15年1月30日)

・美術館・博物館の現状と展望

海外の博物館の現状(フランス)(平成15年1月27日)

日本の美術館の現状と課題(平成15年1月28日)

博物館の望ましい姿(平成15年1月28日)

・美術館・博物館の事業活動

美術館・博物館の評価(平成15年1月29日)

美術館・博物館とボランティア(平成15年1月28日)

美術館・博物館とITの活用(平成15年1月30日)

・調査・研究

文化財調査の科学的方法(平成15年1月29日)

・保存・修復

美術館・博物館の保存環境(平成15年1月29日)

・展覧会の実施

展覧会の照明デザインとディスプレイ(平成15年1月30日)

観覧者の視点で見た展覧会(平成15年1月30日)

・実地研修等

研究討議(分科会)(平成15年1月30日)

2. 他の機関が実施する研修への協力を実施

参加者総数 133人

ア. アート・ドキュメンテーション研究会による研究資料センター見学会

研修期間 平成14年6月29日(土)(1日間)

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター及び、会議室

参加者数 30人

担当した研究員数 1人

事業内容

他機関が実施する研修会及び、見学会等へ協力し、講義等の支援を行うとともに、幅広い交流による情報交換・意見交換を推進し、人的ネットワークの形成に努めた。

イ. 韓国国立現代美術館研修会

研修期間 平成14年11月20日(土)(1日間)

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 会議室

参加者数 5人

担当した研究員数 1人

事業内容 同上。

ウ. 2002年度外務省モンゴル青年招聘事業

研修期間 平成15年3月6日(木)(1日間)

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 会議室

参加者数 5人

担当した研究員数 1人

事業内容 同上。

エ. 全国美術館会議教育普及ワーキング・グループ平成14年度会合

研修期間 平成15年3月19日(水)～3月20日(木)(2日間)

開催場所 企画展示館 講堂

参加者数 33人

担当した研究員数 1人

事業内容 同上。

オ. 美術史学会平成14年度3月例会・常任委員会

研修期間 平成15年3月22日(土)(1日間)

開催場所 企画展示館 講堂、企画展示館事務棟地下1階 会議室

参加者数 60人

担当した研究員数 1人

事業内容 同上。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

美術館・歴史博物館学芸員専門研修会参加者からは、交流の少ない学芸員にとって他館の活動状況等を具体的に把握できた、自身の今後の業務に役立てたい、などの、有意義だったとの好評をいただき、着実に成果を上げた。

【見直し又は改善を要する点】

今後も研修会への協力・支援を行い、情報交換、人的ネットワークの形成に、より積極的に取り組みたい。

(3) - 2 大学等との連携

実績

1. 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力 2名
研修期間 平成14年4月1日～平成15年3月31日
開催場所 国立西洋美術館
参加者数 2人(平成12年度実績無し)
平成14年度からの新規事業
担当した研究員数 2人
事業内容
人文社会系研究科文化資源学研究専攻の一層の充実と当該研究課の学生の資質の向上を図り、相互の教育・研究の交流を促進し、もって学術の発展に寄与することを目的として実施した。受け入れた学生については、当館のインターンシップ制度の下に置いて指導を行った。
2. インターンシップ制度の実施
研修期間 平成14年4月1日～平成15年3月31日(原則年度中に3ヶ月以上、6ヶ月以内の期間)
開催場所 国立西洋美術館
参加者数 8人(平成12年度実績無し)
平成14年度からの新規事業
担当した研究員数 4人
事業内容
西洋美術に関心を持つ人材の専門的知識と技術の向上を図り、当館の活動をより広く理解してもらうこと並びに、教育機能の充実を図ることを目的として美術館における実務研修を実施した。
特記事項
・インターン受入分野(西洋美術史:2名、教育普及:6名)
・国立西洋美術館のホームページを活用し、インターンシップ募集要項の掲載と申請書の配信を行った。
3. 博物館実習生
受入期間 平成14年4月18日～平成14年9月11日(14日間)
開催場所 国立西洋美術館
参加者数 1人(日本大学芸術学部)(平成12年度実績無し)
担当した研究員数 1人
事業内容
当館で開催した「ウインスロップ・コレクション」展の準備の一部である図録編集作業と、作品点検、展示及び、会期中に行うギャラリートークの組み立て方について実習を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今年度、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力について協定を締結した。当制度においては、インターンシップ制度とも連携をしており、東京大学文化資源学専攻より2名の大学院生を受け入れ、指導を行った。また、西洋美術や美術館に関心をもつ人材の育成と当館の普及を目的としてインターンシップ制度を立ち上げ、第1回目のインターン8名を受け入れた。西洋美術史の2名は、それぞれ「ウインスロップ・コレクション」展の企画補助、所蔵作品の資料作成の補助を行い、教育普及の6名は、Fun with Collectionの補助としての活動と、新たなファミリープログラムの教材開発を行った。

各分野によって研修の期間と内容は異なるものであったが、通常の学芸員実習と比べれば、インターンに対して長期にわたる美術館の実務体験を提供することができた。また、美術館にとって、特に教育普及においては、美術館の事業を支えるマンパワーとして重要な役割を果たしてもらうことができた。現状では、短期とは異なる経験ができるという点で評価される部分がありそれは重要なことである。

【見直し又は改善を要する点】

インターンシップの内容（実務の種類、研修の時間）については、この制度の目的と併せてまだまだ検討する必要があることが確認された。

(3) - 3 ボランティアの活用状況

中期計画

(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。

実績

1. 登録人数 登録無し
2. 活動内容 他の博物館・美術館施設の資料を集めるなどして状況を調査し、ボランティアのための施設設備の整備や、ボランティア配置の可能性についてなど、導入に向けての検討を進めた。
3. 今後の取り組み 今後も引き続きボランティア受け入れについて検討を進める。
4. 特記事項
ボランティアについて検討を続けてはいるが、具体的な方策の実現には至っていない。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今年度は、ボランティア検討委員会において、他館におけるボランティアの実状をヒアリングし、当面当館で必要とされるボランティアについて検討を重ねた。さらに、国内外のボランティアに関する文献、情報収集もを行い、来年度へ向けての用意を行った。

【見直し又は改善を要する点】

ボランティアについて検討を続けてはいるが、未だに具体的な方策の実現には至っていない。今後も更なる検討を続け、ボランティア受け入れについて具体的な立案・準備をする必要がある。

(4) 渉外活動

中期計画

(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

実績

1. 展覧会を開催するにあたり、新聞社、企業、メセナ財団より協力及び、支援を得て、企画・運営、渉外、利用者サービス等の充実を図った。

東京新聞より「大英博物館所蔵フランス素描展」を開催するにあたり、渉外、広報活動、展示開催経費（作品貸出料、展覧会図録作成費、展示品損害保険料）について支援及び、助成を得た。

日本航空より「大英博物館所蔵フランス素描展」を開催するにあたり、作品輸送及び、クーリエの航空運賃について割引支援を得た。

(財)東芝国際交流財団より「大英博物館所蔵フランス素描展」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。これにより作品リスト等を作成し入場者へ無料配布した。

読売新聞社より西洋美術振興のための助成金を得た。これによりブリーフガイドを作成し入場者及び、修学旅行の計画のための学校等へ無料配布した。

(財)西洋美術振興財団より講演会等教育普及事業に関する助成を得た。

東京、神奈川、埼玉、千葉教育委員会と、小・中生観覧料金無料化PR活動を連携して行った。

上野駅ビル・アトレ上野内のショップと、国立西洋美術館入場券の半券を持参することで、優待が受けられるタイアッププランを実施した。

「大英博物館所蔵フランス素描展」開催に伴い、英国の文化・芸術・世界遺産を来場者に紹介する英国政府観光庁のキャンペーンに協力した。

地元の上野商店街（「上野のれん会」）への館としての入会を前提に検討した。
2. 展覧会への協力・支援に関する特典として、展覧会協賛企業特別内覧会を開催した。

「プラド美術館展」展覧会協賛企業特別内覧会

日時：平成14年4月15日（火）午後2時～午後8時

入場者：協賛企業（清水建設、東レ）の関係者

入場者数：321名
3. 他機関と共同・連携し、広報活動を行った。

平成14年5月18日「国際博物館の日」に上野地区の各博物館・美術館と共同で、上野公園来園者に対して開催情報等の広報活動を行った。

東京国立博物館、国立科学博物館と共同で情報誌への広報広告を企画し、掲載を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

他の施設等とのタイアップした内容の活動を新たに導入するなど創意工夫を行い実施できた。また、小中学生観覧料金無料化に伴い、世界の優れた美術品、他国の歴史と文化への理解を深める機会をより多くの子供たちに提供するため、東京都、神奈川、埼玉、千葉各県教育委員会と連携し、県内の全小中学校にチラシ・ポスター掲示する広報活動を行った。

【見直し又は改善を要する点】

今後もさらに積極的に、外部に向かった渉外活動（支援、連携、協力）を推し進めたい。

5 . その他の入館者サービス

中期計画

- (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。
- (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。
- (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。
- (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
- (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

実績

1 . 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1

障害者トイレ	5 箇所(本館 1 階 1 箇所、企画展示館地下 1 階 1 箇所、企画展示館地下 2 階 3 箇所)
障害者エレベータ	4 基(新館 1 基、企画展示館 3 基)
段差解消(スロープ)	2 箇所(正門、本館 1 9 世紀ホール)
風除扉の自動扉化	6 箇所(本館 2 箇所、新館 4 箇所)
貸出用車椅子	1 0 台(1 階インフォメーション)
貸出用杖	1 0 本(1 階インフォメーション)
盲導犬・身体障害者補助犬を伴う利用可能	
国立西洋美術館ホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備	
風除扉の自動扉化のうち、新館の 4 箇所は平成 1 4 年度に新設した。	
貸出用車椅子のうち、6 台は平成 1 4 年度に増設した。	
貸出用杖のうち、5 本は平成 1 4 年度に増設した。	
国立西洋美術館ホームページ視覚障害者向けの音声案内機能は平成 1 4 年度に追加した。	

2 . 観覧環境の充実 (1)-2、(1)-4

特別展・共催展において音声ガイドの実施。

「プラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」

「大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 」

「ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵 1 9 世紀イギリス・フランス絵画」

総貸出件数 5 1 , 4 2 0 件

展示解説ビデオを上映。

「プラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」(企画展示館展示ロビー)

「前庭彫刻 免震化と修復」(新館 1 階休憩コーナー)

ジュニアパスポート、作品リスト及び、ワークシートを作成し、無料配布を実施。

ア . ジュニアパスポート(日本語版)、作品リスト(日本語版、英語版)作成展覧会名

「プラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」

「大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 」

「ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵 1 9 世紀イギリス・フランス絵画」

イ . 作品リスト(日本語版、作品名等英語併記)作成展覧会名

「クリシェ・ヴェール - コローとバルビゾン派の版画 - 」

「受難伝 - 国立西洋美術館所蔵のドイツ・ルネサンス版画による - 」

ウ . ワークシート作成展覧会名

「手と心 モネ、ドニ、ロダン」

国立西洋美術館ガイド、展覧会案内チラシ、美術館情報等の広報印刷物を無料配布。

解説パネル、会場内サイン、キャプション等の見直しと整備を実施。

『ポケットガイド 西洋版画の見かた』を平成14年度初めて作成し、ミュージアムショップにおいて販売。

3. 夜間開館等の実施状況 (1)-3

夜間開館実施状況

ア. 開催日数 50日

イ. 入館者数 22,582人(総入場者数737,775人、夜間開館入場率3.06%)
企画展での入場者数を含み 31,194人(総入場者数983,045人、
夜間開館入場率 3.17%)

ウ. 実施日 毎週金曜日は、20時まで開館

小中学生の入場料の低廉化

小中学生入場料の無料化を、国立西洋美術館では平成14年4月1日からの実施日に先駆け、平成14年3月5日(「プラド美術館展」開催日)から先行して実施した。

ア. 常設展、自主企画展は年間を通じて観覧料金無料とした。

「常設展」

「大英博物館所蔵フランス素描展 - フォンテーヌブローからヴェルサイユへ - 」

イ. 共催展は、共催者の協力を得て観覧料金を無料とした。

「プラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」

「ウインスロップ・コレクション展 - フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」

以外の入場者料金の取り組み

ア. 常設展については毎月第2・第4土曜日及び、文化の日を無料観覧日としている。(開催日数24日、入場者数10,352人)

イ. 小企画展「織りだされた絵画」の入場料金を無料とした。

ウ. 2002年ワールドカップサッカー大会の開催に伴い、パスポートを掲示した外国人の常設展入場料金を無料とした。(平成14年5月28日～7月7日、入場者数1,259人)

エ. 館内整備による新館閉室に伴い、閉室期間中の入場料金を割引。(平成15年1月14日～2月14日)

オ. 平成15年度から学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を図るための準備を行った。

学生130円(団体70円) 大学生130円(団体70円)、高校生70円(団体40円)

その他の入館者サービス

ア. 館内の売札所において、自主企画展・共催展前売券を販売した。

イ. 自主企画展「大英博物館所蔵フランス素描展」では、前売券を、東日本旅客鉄道、チケット・ぴあ、東京音響、板橋区中小企業振興公社でも販売した。

ウ. 展覧会の混雑時は、開館時間の延長や、開館時間を早めて対応している。

エ. 4月29日から5月5日にかかる一連の連休期間は休館をしないこととしている。

オ. ロダンの彫刻のある前庭及び、本館1階のレストラン、ミュージアムショップ、デジタルギャラリー、資料コーナーがあるスペースをフリーゾーンとしている。

4. アンケート調査(1)-3

調査期間 平成14年5月30日～平成14年6月2日(4日間)(プラド美術館展)

平成14年8月1日～平成14年8月4日(4日間)(大英博物館所蔵フランス素描展)

平成14年11月21日～平成14年11月24日(4日間)(ウインスロップ・コレクション展)

平成15年3月6日～平成15年3月9日(4日間)(常設展)

調査方法 各展覧会のアンケートを実施する際に鑑賞環境の満足度調査も併せて行っている。また、館内にアンケート箱を設置しており、入館者の意見を随時受け入れている。

アンケート回収数 1,520件

アンケート結果 ・良い71%(1,079件)・普通22.3%(339件)・悪い6.1%(93件)

・無回答0.6%(9件)

5. 一般入館者等の要望の反映 (2)

高齢者、身体障害者の方の要望に応え、貸出用の車椅子及び、杖を増設した。また、新館会場内の風除扉4箇所について自動扉化を行い、車椅子等の通行が容易にできるよう配慮をした。

入館者の要望に応え、館内の売札所において当館共催展の前売券販売を開始し、利便性の向上を図った。

多くの方に展覧会を見ていただき、美術館に親んでもらいたいと考え、小企画展「織りだされた絵画」を入

場料金無料とした。

6. レストラン・ミュージアムショップの充実 (3)

ア. レストラン

お客様の要望に応え、季節に応じたメニューの取り扱いを始めた。(冬期のグラタンなど)

セットメニューを増やすなどして、利用しやすい料金設定に努めた。

お客様の要望に合わせてラストオーダー時間の変更をするなどして、サービスの向上に努めている。

レストランの禁煙化を実施した。

イ. ミュージアムショップ

お客様の要望に応え、絵葉書の品揃えを増やし、種類の入れ替えを行った。

書籍の充実を図り、子どもから大人や専門家まで対応が可能な幅広い品揃えになるよう努めた。

遠方のお客様にはカタログ等の通信販売にも対応するなどして、サービスの向上に努めている。

7. 特記事項

入館者アンケートの分析によるお客様からの要望への対応を重視し、風除扉の自動扉化等による施設設備の整備や、鑑賞の理解を支援するジュニアパスポート、ポケットガイドの刊行など、入館者サービスの向上と強化に努めた。

業者等と連携してレストラン、ミュージアムショップの運営に取り組み、メニュー、料金、品揃え等、お客様の利便性を第一に考えたサービスの提供と、禁煙化の実施など気軽に利用でき快適な空間となるよう館内環境の充実に努めた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

本年度はバリアフリー対応として風除扉の自動化、貸出用車椅子・杖のそれぞれ設置と自主企画展においてのジュニアパスポート導入を新たに行い、入館者サービスの充実を図った。

【見直し又は改善を要する点】

今後も入館者のニーズに合わせた、きめ細かなサービスについて検討を行い、可能なものから実施に努める必要がある。

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名:国立西洋美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
絵画	ヤン・ブリューゲル	アブラハムとイサクのいる森林風景	1599年	油彩、板	49.5×64.7	
版画	ニコラス・ベアトリゼ	イフィゲネアの犠牲	1553年	エングレービング	28.5×39.8	
版画	ルカス・クラナハ(父)	サムソンのタベストリーのある馬上試合(第二トーナメント)	1509年	木版画	29.2×41.5	
版画	レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン	薬剤師アブラハム・フランケンの肖像	1657年頃	エッチング、ドライポイント、ビュラン	15.7×20.9	
版画	ハンス・ゼーバルト・ペーハム	キリストの頭部	1519年	エングレービング	3.7×2.8	
版画	フィリップ・ハレ	聖母の死(ピーテル・ブリューゲルの構図による)	1574年	エングレービング	30.6×41.8	
版画	ジョルジョ・ギージ	エゼキエルの幻視	1554年	エッチング、エングレービング	40.8×68.3	
版画	ヨリス・ファン・フリート	聖ヒエロニムス(レンブラントの構図による)	1631年	エッチング、エングレービング	35.2×28.6	
素描	マックス・クリンガー	私室での陵辱	1882年	インク / 紙	127×127	

美術作品の寄贈一覧(平成14年度)

館名:国立西洋美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
絵画	フランク・ブラングイン	煙草をくわえた男	19・20世紀頃	油彩、カンヴァス	44 × 36	

修理した美術作品の一覧(平成14年度)

館名:国立西洋美術館

種別	作者名	作品名	備考
絵画	ニコラ・ランクレ	「眠る羊飼いの女」	
絵画	グエルチーノ	「ゴリアテの首を持つダヴィデ」	
絵画	カルロ・ドルチ	「悲しみの聖母」	
版画・素描	ブラックモン	「猿と猫」	
版画・素描	ブラックモン	「あるムガール人の夢」	
版画・素描	ブラックモン	「恋するライオン」	
版画・素描	ブラックモン	「不和の女神」	
版画・素描	ブラックモン	「幸運の女神を追う男」	
版画・素描	ブラックモン	「蛇の頭と尾」	
版画・素描	ロダン	「うづくまる裸婦」	
版画・素描	ロダン	「立てる裸女」	
版画・素描	ロダン	「女」	
版画・素描	ロダン	「裸の女」	
版画・素描	ロダン	「化粧」	
版画・素描	マックス・クリンガー	「私室での陵辱」	
彫刻	ロダン	「アダム」	前庭彫刻「アダム」、「エ
彫刻	ロダン	「エヴァ」	ヴァ」免震化工事
彫刻	ロダン	「考える人」	
彫刻	ロダン	「カレーの市民」	
工芸		「庭園婦女の図」	タピスリー「庭園婦女の図」
工芸		「アトランタとヒッポネス」	ニューヨーク・メトロポリタン
工芸		「ポロスとの戦い」	美術館染織修復部と連携
工芸		「村祭り」	し、技術協力を得て修復を
工芸		「田園の恋人たち」	実施
工芸		「狩人と娘たち」	
工芸		「シャンボール城:9月」	
その他	ニコラ・ランクレ	「眠る羊飼いの女」(額縁)	

調査研究一覧

館名：国立西洋美術館

名称	研究者名	内容	外部研究者との交流実績	研究成果の公開(図録・研究紀要・セミナー・シンポジウム)	備考
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究	高橋 明也	寄贈、旧松方コレクションタピスリーの調査・研究 旧松方コレクションのレオナルド・ピストルフィ作彫刻群調査・研究		[新収作品解説]「寄贈作品：旧松方コレクションのタピスリー群」『国立西洋美術館年報』No.36, p.18 [論文]「再発見された旧松方コレクションのレオナルド・ピストルフィ作彫刻群について 第二回調査報告」『国立西洋美術館紀要』No.6, 2002年, pp.33-44	
	高梨 光正	寄贈、旧松方コレクションタピスリーの調査・研究 国立西洋美術館所蔵作品のネガフィルムのデータベース拡充、及び作品データベース拡充 作品貸出業務関連データベース拡充			
中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	幸福 輝	ヤン・ブリューゲル、(アブラハムとイサクのいる森林風景)(2002年度購入作品)の調査研究 「レンブラント：聖書、神話、物語」及び、同展シンポジウム(2003年開催予定)の調査・企画 「クストディア財団キアロスクーロ版画展」(2005年開催予定)の調査・企画		[論文]「消えたイタリア - ブリューゲルのイタリア体験」、『国立西洋美術館研究紀要No.6』	
	高橋 明也	寄託作品受け入れ準備・調査 ポール・ランソン作(ジギタリス)		[新収作品解説]「マリー = ガブリエル・カペ[1761 - 1818](自画像)(デッサンをする画家)」、『国立西洋美術館年報』No.36, pp.13-15	

中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究			<p>[新収作品解説]『フランク・ブラングイン [1867 - 1956] (しけの日)』『国立西洋美術館年報』No.36, pp.16-17</p> <p>[講演会]『20世紀美術の中のユトリロ 第一次大戦前夜から1920年代のパリ』、『ユトリロ』展記念講演会、富山県立近代美術館、2002年7月20日</p>
	田邊 幹之助	<p>「中世の金工展」(仮称)(2004年度開催予定)の調査・企画</p>	<p>[作品解説]『ウィーン美術史美術館名品展』カタログ、東京藝術大学大学美術館 2002年、pp.46,47,106-113,124</p> <p>[翻訳]カール・シュッツ、『美術史美術館 絵画ギャラリーの歴史』、『ウィーン美術史美術館名品展』カタログ、東京藝術大学大学美術館 2002年、pp.11-15</p> <p>[口頭発表]『近世初期、中部ヨーロッパの都市と宮廷の美術をめぐる諸問題』、スペイン・ラテンアメリカ美術学会 2002年4月</p> <p>[著書]『世界美術館の旅』(共著)小学館 2002年</p>
	田中 正行	<p>国立西洋美術館在外研究員、1910年代における仏独の前衛画家たちの交流と相互影響に関する調査研究</p> <p>『マティス展』(仮称)(2004年開催予定)の調査・企画</p>	
	佐藤 直樹	<p>ドレスデン版画素描館所蔵「ドイツ・ロマン主義の素描」(2003年度開催予定)の調査・企画</p>	<p>[論文]Der Ort des wabi - zu einer Theorie der Haut in der japanischen Kunst, übersetzt von Alexander Hofmann, in: Gesichter der Haut, hrsg. von Ch. Geissmar-Brandi, I. Hijiya-Kirschnerreit und Satô Naoki, Stroemfeld/Nexus, Frankfurt/Basel, 2002. S. 33-44.</p>

<p>中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究</p>	<p>大屋 美那</p>	<p>[版画素描学芸員国際会議参加] International Advisory Committee of Keepers of Pubulic Collections of Graphic Art, XVIIth Convention at Rotterdam and Antwerp, June 2th-6th, 2002</p> <p>スタンフォード大学付属美術館主催シンポジウム参加, “New Studies on Auguste Rodin”, October 4-5, 2002</p>		<p>[論文]Ch. Geissmar-Brandi, I. Hijiya-Kirschnerreit und Satô Naoki, Gesichter der Haut, Nexus 57, Stroemfeld/Nexus, Frankfurt/Basel, 2002</p> <p>[論文]デューラーの〈幻影〉について—ルネサンスの夢に関する研究—、『鹿島美術研究』年報第19号別冊、財団法人鹿島美術財団、2002年、205-220頁。</p> <p>[作品解説]『ウィーン美術史美術館名品展—ルネサンスからバロックへ—』カタログ、マンテーニャ工房、デューラー、ソラーリオ、ティツィアーノ、ボルドーネ、ティントレット、パッサーノの作品を解説、東京藝術大学大学美術館、2002年。</p>	
<p>中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究</p>	<p>高梨 光正</p>	<p>「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻展」(仮称)(2004年春開催予定)の調査・企画(2004年春開催予定)</p> <p>国立西洋美術館所蔵作品のネガフィルムのデータベース拡充、及び作品データベース拡充</p> <p>作品貸出業務関連データベース拡充</p>		<p>[論文]『METAMORPHOSEON』、『国立西洋美術館研究紀要』、No.6、2002年3月、pp.7-18。</p> <p>[翻訳]アン・マクタッガート、ピーター・マクタッガート、「テンペラ技法と鍵盤楽器装飾」、『国立西洋美術館研究紀要』No.7、2003年3月。</p> <p>[作品解説]「グイド・レーニ(ルクレティア)」、『国立西洋美術館年報』No.36、2003年1月、pp.8-12。</p>	

	渡辺 晋輔	<p>「クストディア財団所蔵キアロ・スクーロ版画展(仮称)」(2005年開催予定)の調査・企画</p> <p>東京文化財研究所・保存担当学芸員研修(2002年7月9日 - 7月19日)に参加</p>		<p>[著書]『西洋版画の見かた』、国立西洋美術館、2003年</p> <p>[作品解説]「木版画とトランプ」、『ゼフュロス』No. 12、2002年8月</p>	
西洋美術作品の保存修復に関する調査研究	河口 公夫	<p>寄贈タピスリー作品(庭園婦女の図)修復</p> <p>ロダン彫刻作品(アダム)と(エヴァ)免震化工事</p> <p>ピストルフィ彫刻修復と調査</p> <p>タピスリー7作品の調査</p> <p>絵画修復報告のデータベース化</p>		<p>[執筆]武蔵野美術大学通信課程教科書「修復と保存」担当</p> <p>[論文]「保存修復部門の役割」、『国立西洋美術館研究紀要』、No.6、2002年3月</p>	
西洋美術作品の保存修復に関する調査研究	塚田 全彦	<p>2002年度寄贈タピスリー作品の調査・修復に伴う科学的調査</p> <p>貸し出し作品保存処置(温湿度データロガーの設置)</p> <p>絵画作品の修復処置に伴うX線写真撮影</p> <p>平成14年度日本学術振興会科学研究費(若手研究B)「油絵具の乾燥における脂肪酸組成の変化に対する顔料の影響」</p>		<p>[論文]「ピラネージ作版画の修復処置と接着剤の分析」、『国立西洋美術館研究紀要』、No.7(共著:坂本雅美/真貝哲夫/塚田全彦/河口公夫)(in press)</p> <p>[口頭発表]「輸送中の美術品が受ける振動」全国美術館会議保存ワーキンググループ第22回会合、石橋財団、2002年10月4日、5日(共同発表:石井亨/塚田全彦)</p>	
西洋美術作品の保存修復に					

<p>関する調査研究</p>		<p>新館展示室の風除扉設置工事、および空調機薬品洗浄に伴う空気汚染調査</p> <p>清掃用ワックスによる室内空気汚染の調査</p>			
<p>美術館教育に関する調査研究</p>	<p>寺島 洋子</p>	<p>2002年度インターン指導</p> <p>「Fun with Collection '02 手と心 - モネ、ドニ、ロダン」企画・構成・実施 2002年6月18日 - 9月1日</p> <p>「Fun with Collection '03 ココロのマド-絵のかたち」(2003年度開催予定)の調査・企画</p> <p>全国美術館会議教育普及ワーキング・グループ第25回会合開催 芦屋市立美術博物館、2002年12月3日、4日</p> <p>「博物館の機能及びその効果的な運営の在り方に関する実証的研究」、文部科学省科学研究費(特別研究促進費)、研究分担者(平成14年度)</p>	<p>国立科学博物館 地学研究部長 齋藤靖二「博物館の機能及びその効果的な運営の在り方に関する実証的研究」における、研究分担を行った。</p>	<p>[口頭発表]「国立西洋美術館における教育普及インターン」東京大学文化資源学研究会第1回研究会、2002年7月20日</p> <p>「大英博物館所蔵フランス素描展」「ウインスロップ・コレクション展」「ジュニア・パスポート」(共同編集)</p>	
<p>美術館教育に関する調査研究</p>	<p>波多野 宏之</p>	<p>研究資料センター及び、資料コーナーの公開運用</p>		<p>『図書館情報学用語辞典 第2版』、丸善、2002年8月、273p。(項目執筆)</p>	

		デジタルギャラリー:超高精細画像検索表示システムの公開運用	<p>『パリのアート・ライブラリー』の試み』(テキストおよびCD-ROMファイル)『国立民族学博物館調査報告』35、2003年2月、p.57-63 付:CD-ROM 1枚</p> <p>[口頭発表]「座談会 市民社会とアート・ドキュメンテーション活動」、第13回(2002年度)アート・ドキュメンテーション研究会年次大会、2002年6月8日</p> <p>[講演]「デジタル技術とミュージアム」、中央区教育会図画工作部研究授業「目で・あ!・アート デジタル機器を使い、造形表現を楽しむ」講演、2002年10月17日</p> <p>[講義]「アート・ドキュメンテーション 図書館と美術館を結ぶ」、千葉大学文学部特別講義 人文科学の現在:図書館サービスのフロンティア、2003年2月6日</p>
展覧会に関わる調査研究	高橋 明也	「織りだされた絵画 国立西洋美術館所蔵17-18世紀タピスリー」展 2003年3月18日 5月25日	<p>『織りだされた絵画 国立西洋美術館17-18世紀タピスリー』展カタログ(編集・共著)国立西洋美術館 2003年</p> <p>「国立西洋美術館の[タピスリー展]を巡る覚書」、『織りだされた絵画』展カタログpp.6-9</p> <p>[論文]「近世のタピスリー芸術 絵画と工芸のはざままで」、『織りだされた絵画』展カタログ、pp.10-15</p>
展覧会に関わる調査研究	田邊幹之助	<p>「織りだされた絵画 国立西洋美術館所蔵17-18世紀タピスリー」展 2003年3月18日 5月25日</p> <p>「ブラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」展 2002年3月5日 6月16日</p>	<p>『織りだされた絵画 国立西洋美術館17-18世紀タピスリー』展カタログ、2003年3月</p> <p>[展覧会報告]『ブラド美術館展 スペイン王室コレクションの美と栄光』、国立西洋美術館年報 No.36、2003年、pp.19,20</p>

		「受難伝 - 国立西洋美術館のドイツ・ルネサンス版画による -」、国立西洋美術館 2003年3月4日 - 5月18日		
展覧会に関わる調査研究	大屋 美那	「ウインスロップ・コレクション」展、国立西洋美術館、2002年9月14日-12月8日	ジェームズ・クノー(フォッグ美術館館長)、ステファン・ウォロホジアン(フォッグ美術館絵画部学芸員)、ミリアム・シュワート(フォッグ美術館素描部学芸員)を招聘し、19世紀イギリス・フランス美術についての意見交換を行った。	『ウインスロップ・コレクション』展カタログ、作品解説(Nos.1, 5, 6, 13, 14, 23, 24, 55) 『ウインスロップ・コレクション』展カタログ(共同編集)、国立西洋美術館、2002年9月 「フォッグ美術館とウインスロップ・コレクションについて」東京新聞、9月12日(朝刊) [翻訳]ジェームズ・クノー「エドワード・W. フォーブス、ポール・J. サックスとフォッグ美術館の起源」『ウインスロップ・コレクション』展カタログ、pp.13-18 [翻訳]ステファン・ウォロホジアン「美を求める眼: グレンヴィル・ウインスロップとそのヨーロッパ美術コレクション」『ウインスロップ・コレクション』展カタログ、pp.19-36 [翻訳]ジェームズ・クノー「ウインスロップのコレクションとフォッグ美術館」東京新聞、9月28日(朝刊) [講演]豊島区民教室「19世紀イギリス・フランス絵画~国立西洋美術館「ウインスロップ・コレクション」展を訪れて」豊島区千早社会教育会館、2002年11月15日、29日
	渡辺 晋輔	「ブラド美術館 - スペイン王室コレクションの美と栄光」展 2002年3月5日 6月16日		[講演]先生のための鑑賞プログラム「ブラド美術館展」概要説明 2002年4月13日

<p>展覧会に関わる調査研究</p>		<p>「版画作品展 クリシェ・ヴェール(ガラス版画) - コローとバルビゾン派の版画 -」、国立西洋美術館、2002年9月14日 - 12月8日</p>		<p>[講演]スライドトーク「ブラド美術館展」 2002年5月10日</p> <p>[作品解説]「ベラスケス作 フェリペ4世」、『読売新聞(東京版・朝刊)』、2002年5月28日</p> <p>[作品解説]「ティントレット作 胸をはだける婦人」、『読売新聞(東京版・朝刊)』、2002年5月29日</p> <p>[作品解説]「ルーベンス作 エウロペの略奪」、『読売新聞(東京版・朝刊)』、2002年5月30日</p> <p>[作品解説]「エル・グレコ作 洗礼者ヨハネと福音書記者ヨハネ」、『読売新聞(東京版・朝刊)』、2002年5月31日</p> <p>[作品解説]「ゴヤ作 日傘」、『読売新聞(東京版・朝刊)』、2002年6月1日</p>	
--------------------	--	--	--	--	--